

第3章

調査の分析結果

第3章 調査の分析結果

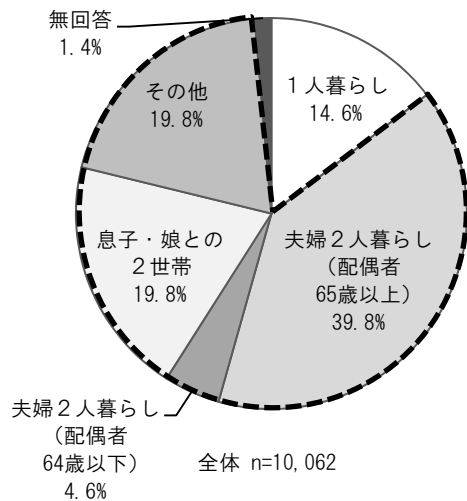
1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成及び昼間独居者の状況

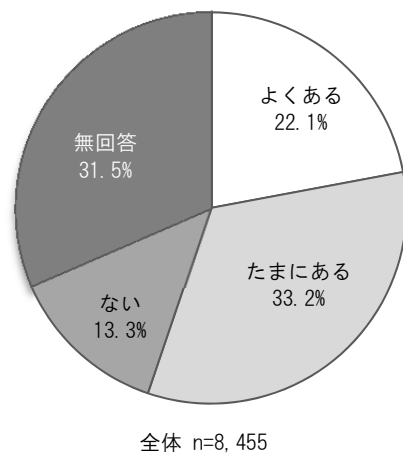
○家族構成をみると、「夫婦2人暮らし（配偶者 65歳以上）」（39.8%）が最も多く、次いで「息子・娘との2世帯」（19.8%）、「1人暮らし」（14.6%）となっています。

○日中に1人になることの有無は、「たまにある」（33.2%）が最も多く、「よくある」（22.1%）を合わせた5割以上が、日中に1人になることがあると回答しています。

問1-(1) 家族構成



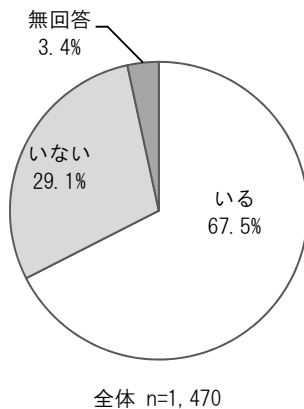
問1-(1).① 日中、1人になることの有無



《参考》

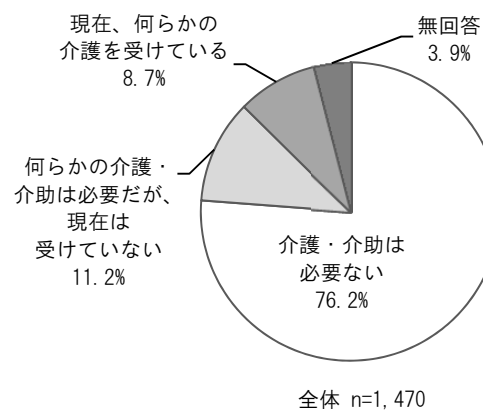
問1-1 1人暮らし×

問1-(2) 概ね30分以内の近居の親族の有無



問1-1 1人暮らし×

問1-(3) 普段の生活で介護・介助が必要か

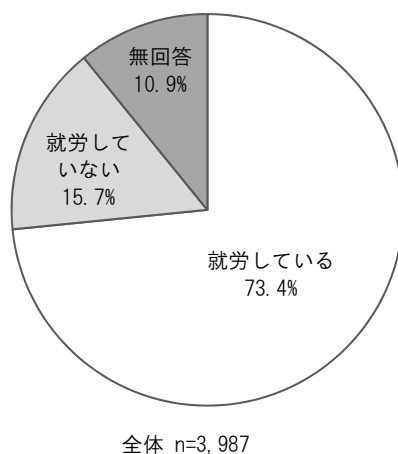


○家族の就労状況をみると、「就労している」が73.4%、「就労していない」が15.7%となっています。

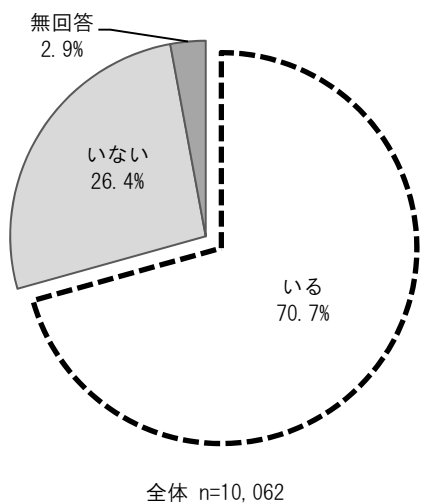
○概ね30分以内に駆けつけることができる近居の親族の有無は、「いる」が70.7%、「いない」が26.4%となっています。

○近居の親族との間柄では、「子」(68.1%)が最も多く、次いで「兄弟・姉妹」(31.2%)となっています。

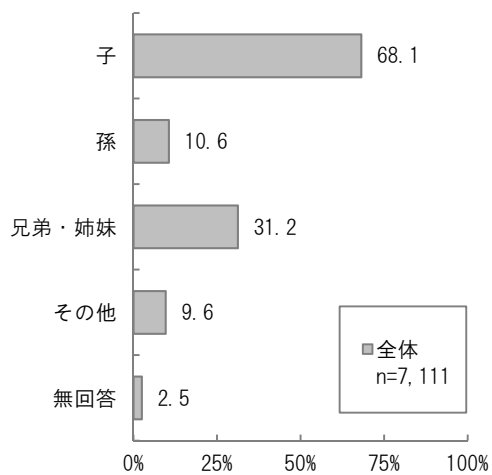
問1-(1).② 家族の就労状況



問1-(2) 概ね30分以内の近居の親族の有無



問1-(2).① 近居の親族



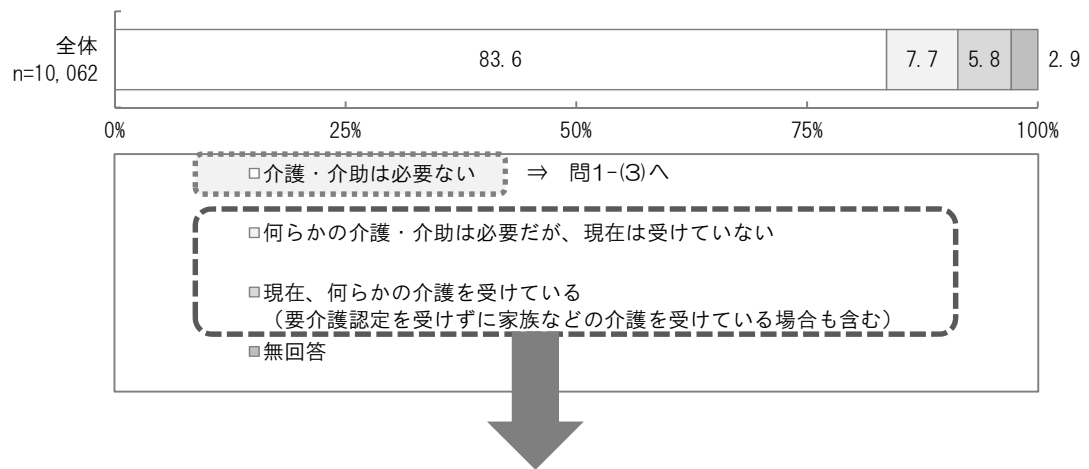
(2) 日常生活における要介護（介助）者の有無

○普段の生活における介護・介助の状況をみると、「介護・介助は必要ない」（83.6%）が最も多くなっています。

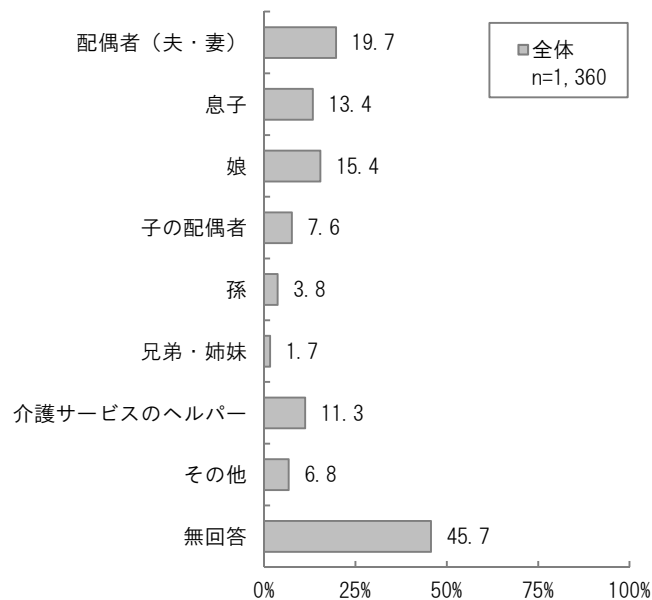
○介護、介助をしてきている人は、「配偶者（夫・妻）」（19.7%）が最も多く、次いで「娘」（15.4%）、「息子」（13.4%）となっています。

○介護・介助が必要になった主な原因は、「高齢による衰弱」（22.3%）が最も多く、次いで「関節の病気（脊柱管狭窄症、膝関節症等）」（20.5%）、「骨折・転倒」（14.1%）となっています。

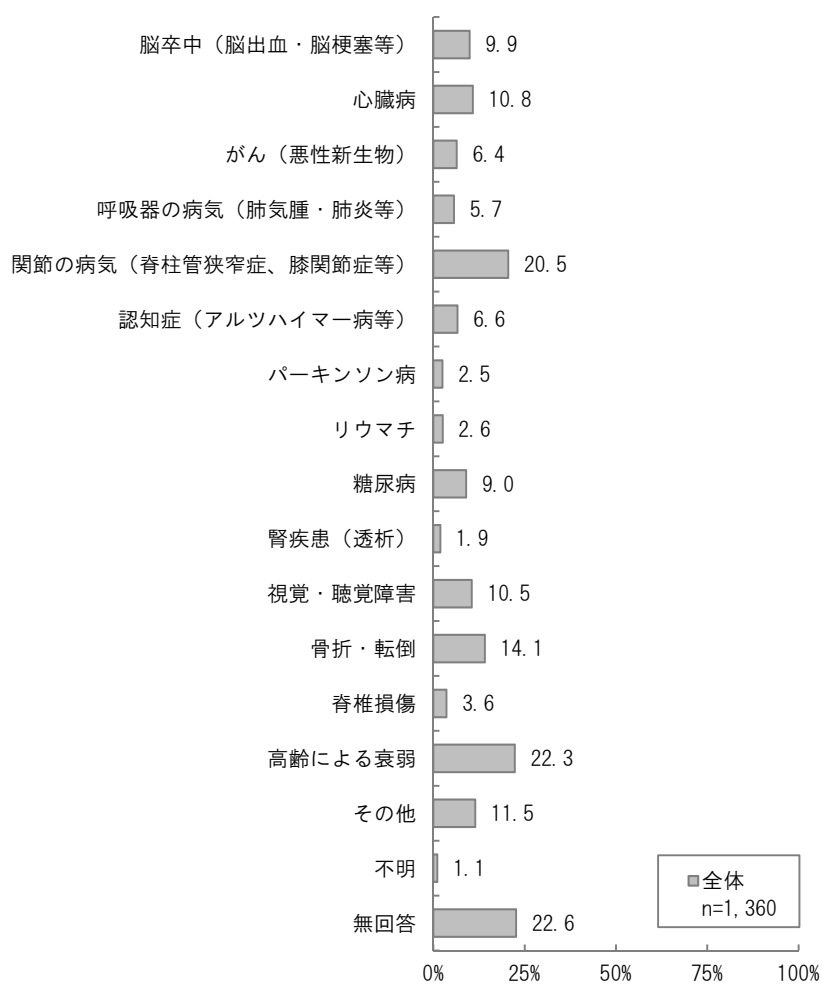
問1-(3) 普段の生活で介護・介助が必要か



問1-(3).② 介護、介助をしてきている人



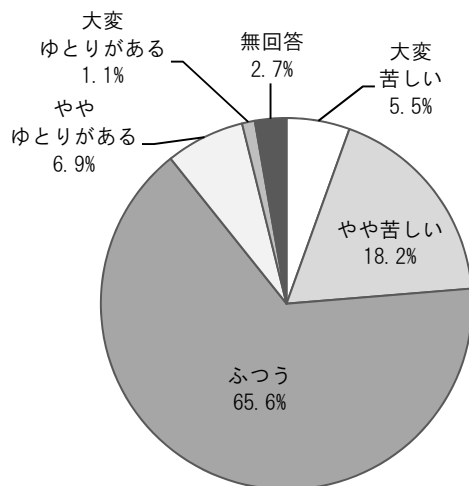
問1-(3).① 介護・介助が必要になった主な原因



(3) 現在の経済状況

○現在の暮らしの経済的状况をみると、「ふつう」(65.6%)が最も多く、次いで「やや苦しい」(18.2%)、「ややゆとりがある」(6.9%)となっています。

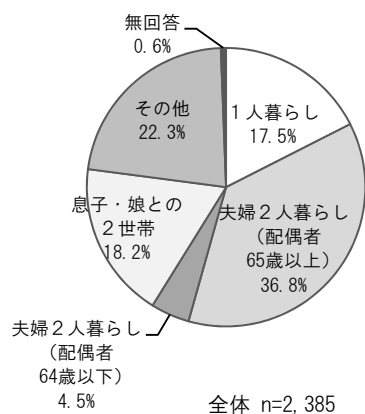
問1-(4) 現在の暮らしの状況を経済的にみて



全体 n=10,062

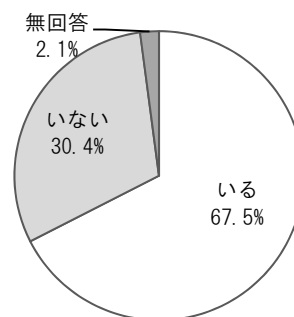
《参考》 問1-(4) 現在の暮らしの状況（大変苦しい・やや苦しい）とのクロス集計

×問1-(1) 家族構成



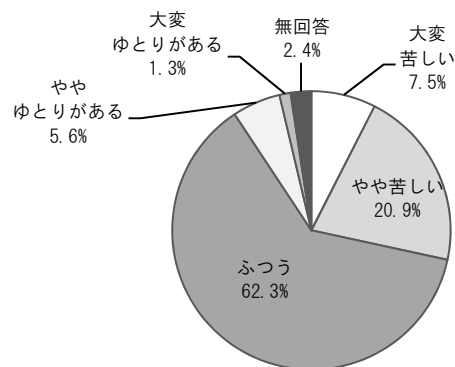
全体 n=2,385

×問1-(2) 概ね30分以内の近居の親族の有無



全体 n=2,385

問1-(1) 家族構成(一人暮らし) × 問1-(4) 現在の暮らしの状況を経済的にみて

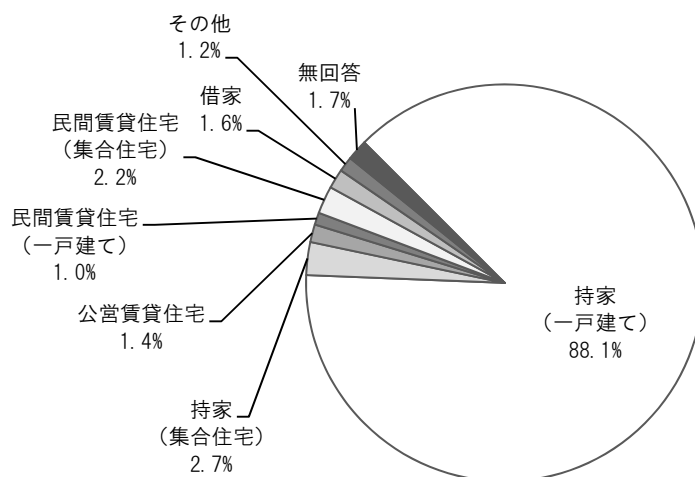


全体 n=1,470

(4) 現在の居住環境

○現在の暮らしている家の状況は、「持家（一戸建て）」（88.1%）が最も多く、次いで「持家（集合住宅）」（2.7%）、「民間賃貸住宅（集合住宅）」（2.2%）、「借家」（1.6%）となっています。

問1-(5) 現在の暮らしている家の状況



全体 n=10,062

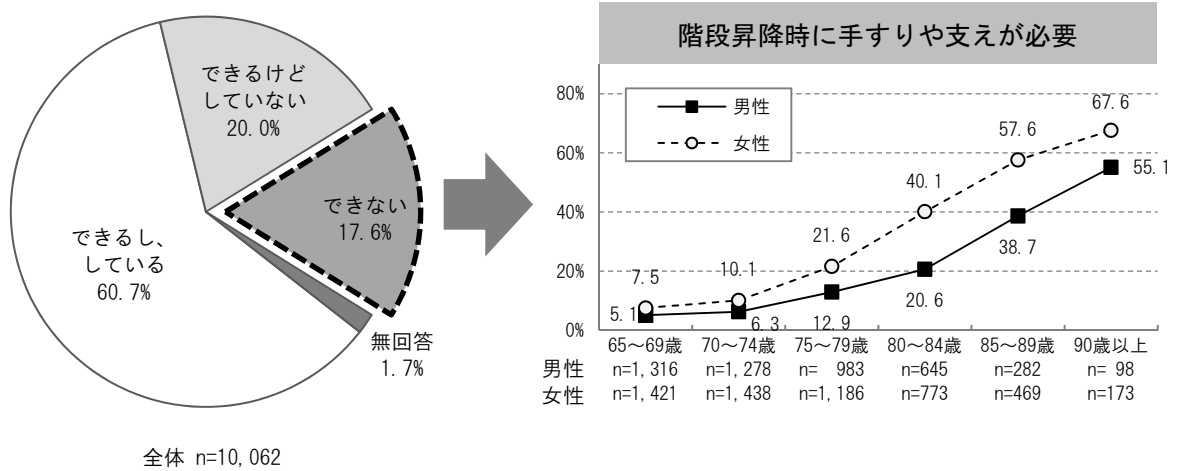
2 からだを動かすことについて

(1) 運動機能の状況

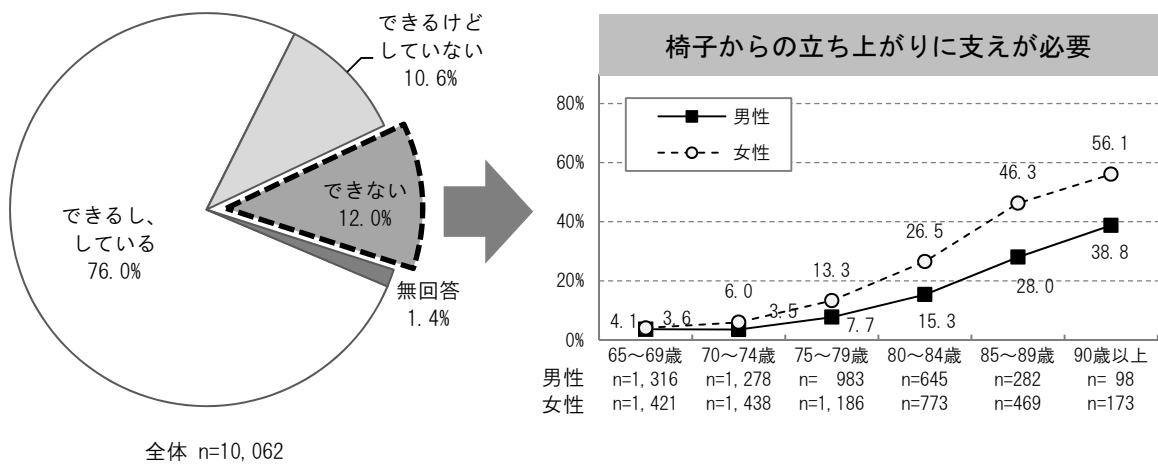
○階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるかでは、「できない」方が 17.3% います。その該当者の性別年齢階級別では男女とも加齢とともに割合が高くなっています。

○椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができるかでは、「できない」方が 12.0% います。その該当者の性別年齢階級別ではほとんどの年齢階級で女性の割合が男性を上回っています。

問2-(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるか



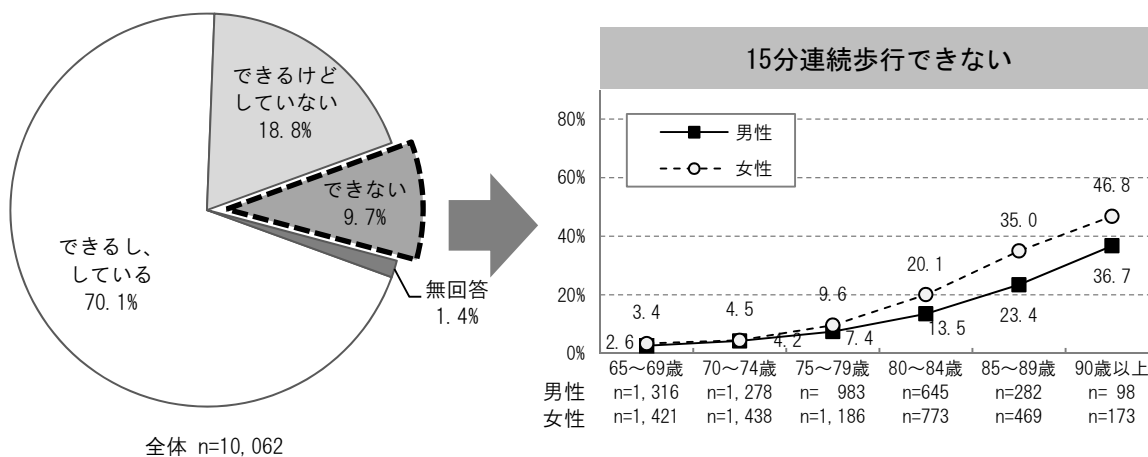
問2-(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができるか



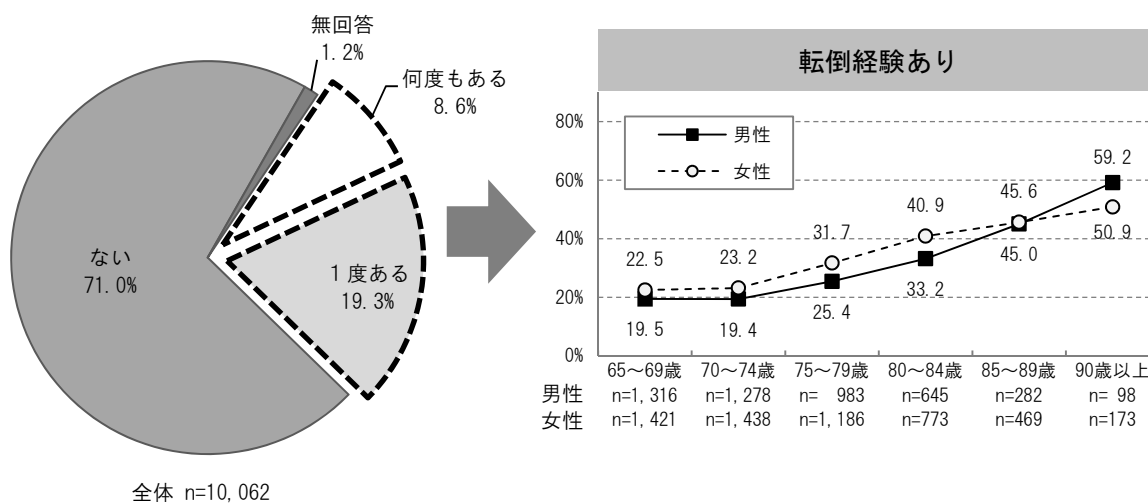
○15分位続けて歩くことができるかでは、「できない」方が9.7%います。その該当者の性別年齢階級別では男女ともに80歳以上の割合が高くなっています。

○過去1年間に転んだ経験の有無では、「何度もある」(8.6%)と「1度ある」(19.3%)を合わせた27.9%の方が転んだ経験があると回答しています。その該当者の性別年齢階級別では加齢とともに割合が高くなり、女性が男性を上回っています。

問2-(3) 15分位続けて歩くことができるか

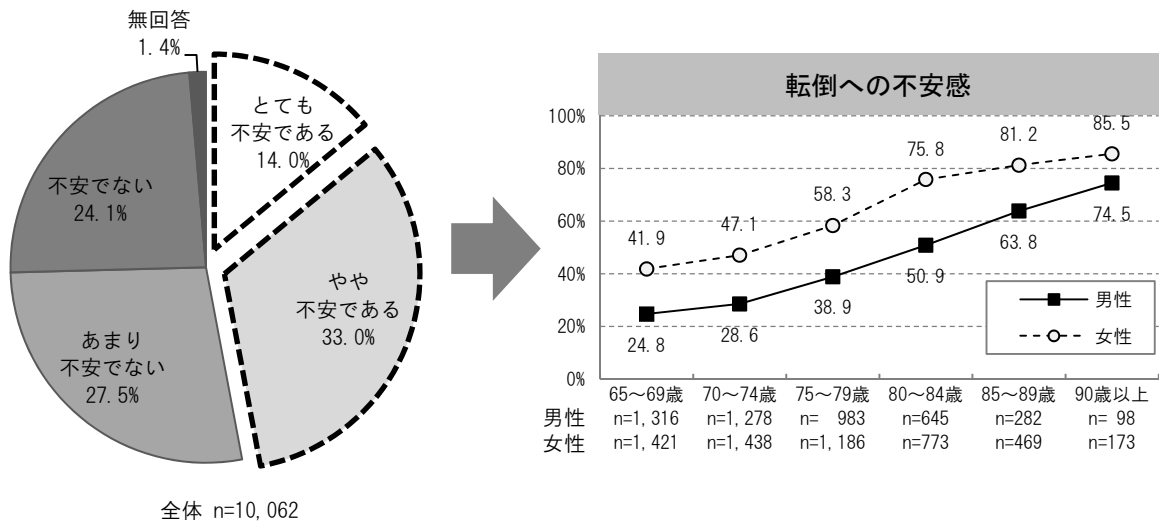


問2-(4) 過去1年間に転んだ経験の有無



○転倒に対する不安の有無では、「とても不安である」(14.0%)と「やや不安である」(33.0%)を合わせた 47.0%の方が不安であると回答しています。その該当者の性別年齢階級別では男女とも加齢とともに割合が高くなり、女性は全年齢階級で男性の割合を大きく上回っています。

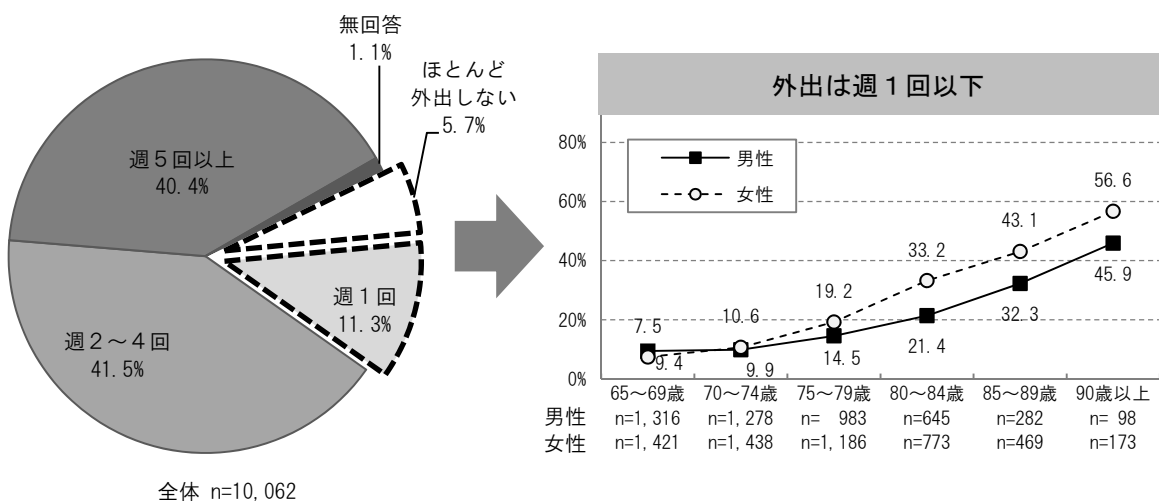
問2-(5) 転倒に対する不安の有無



(2) 外出の状況

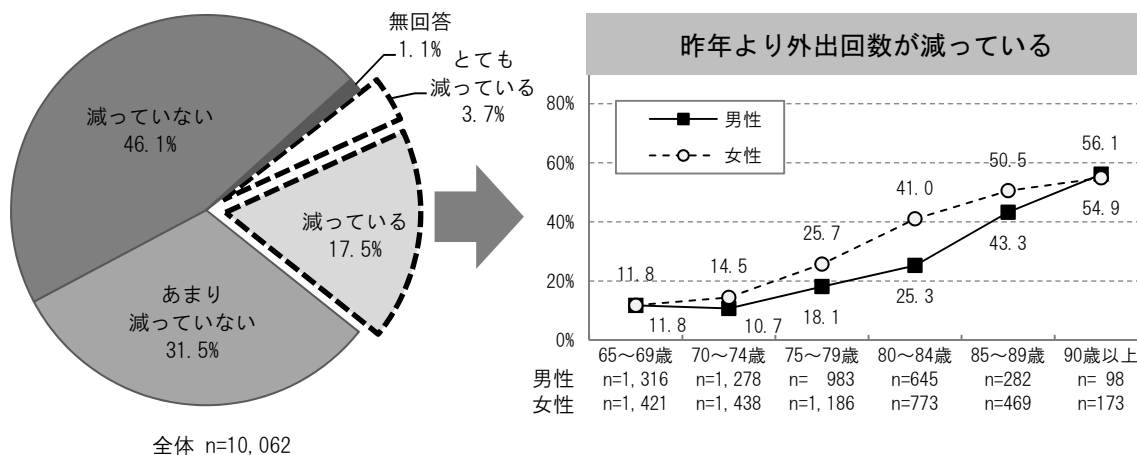
○週に1回以上の外出の有無では、「週1回」(11.3%)と「ほとんど外出しない」(5.7%)を合わせた 17.0%の方が週1回以下と回答しています。その該当者の性別年齢階級別では男女ともに80歳以上で割合が大きく上昇しています。

問2-(6) 週に1回以上の外出の有無



○昨年と比べた外出の頻度の減少では、「減っている」(17.5%)と「とても減っている」(3.7%)を合わせた21.2%の方が回答しています。その該当者の性別年齢階級別では男女とも加齢とともに割合が高くなっています。

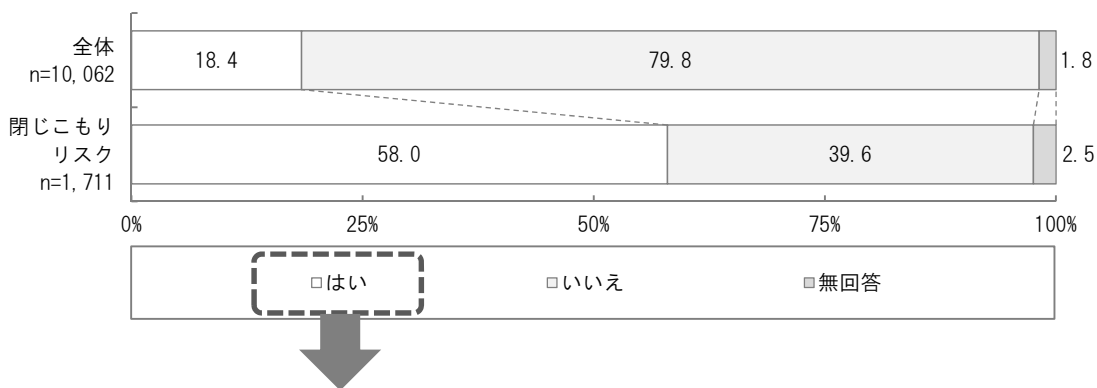
問2-(7) 昨年と比べた外出の頻度



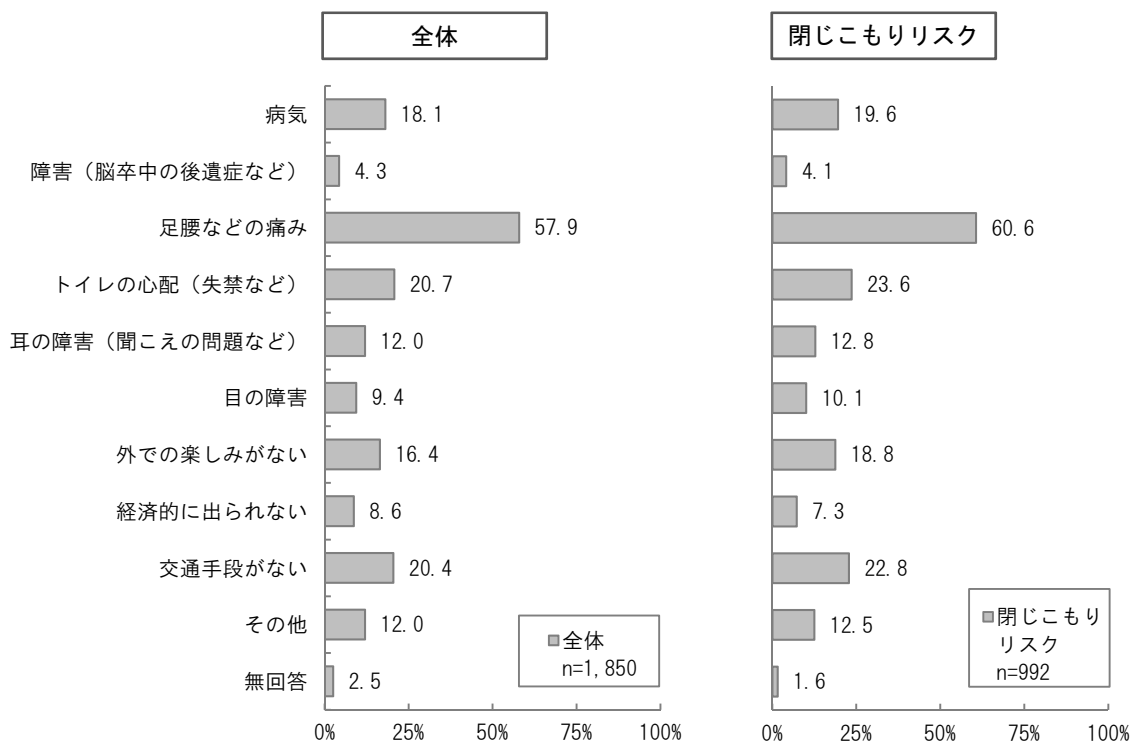
○外出を控えているかをみると、全体では 18.4%の方が外出を控えていると回答しています。一方、閉じこもりリスク者では 58.0%と前者よりも 39.6%^{ポイント}高い状況です。

○外出を控えている理由は、両者ともに「足腰などの痛み」（全体 57.9%・リスク保持者 60.6%）が最も多く、次いで「トイレの心配（失禁など）」（全体 20.7%・リスク保持者 23.6%）、「交通手段がない」（全体 20.4%・リスク保持者 22.8%）、「病気」（全体 18.1%・リスク保持者 19.6%）となっており、上位を占める理由に差はありません。

問2-(8) 外出を控えているか（×「閉じこもりリスク者」）



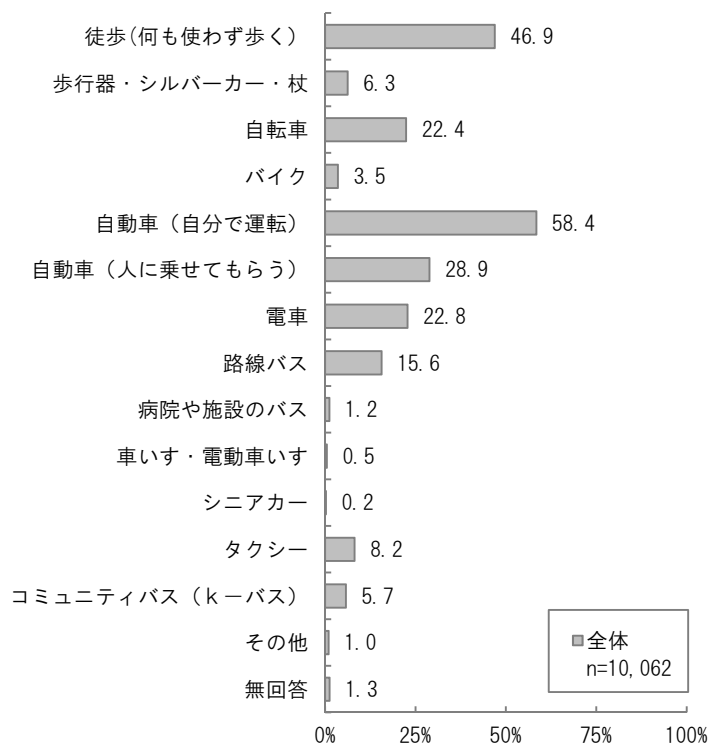
問2-(8).① 外出を控えている理由（×「閉じこもりリスク者」）



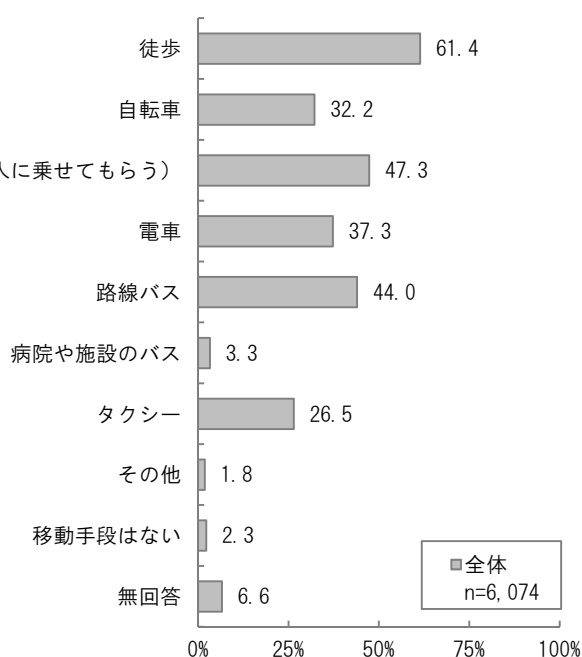
○外出する際の移動手段は、「自動車（自分で運転）」（58.4%）が最も多く、次いで「徒歩」（46.9%）、「自動車（人に乗せてもらう）」（28.9%）、「電車」（22.8%）、「自転車」（22.4%）となっています。

○自分で運転しなくなった場合の移動手段では、「徒歩」（61.4%）が最も多く、次いで「自動車（人に乗せてもらう）」（47.3%）、「路線バス」（44.0%）となっています。

問2-(9) 外出する際の移動手段



問2-(9)① 自分で運転しなくなった場合の移動手段

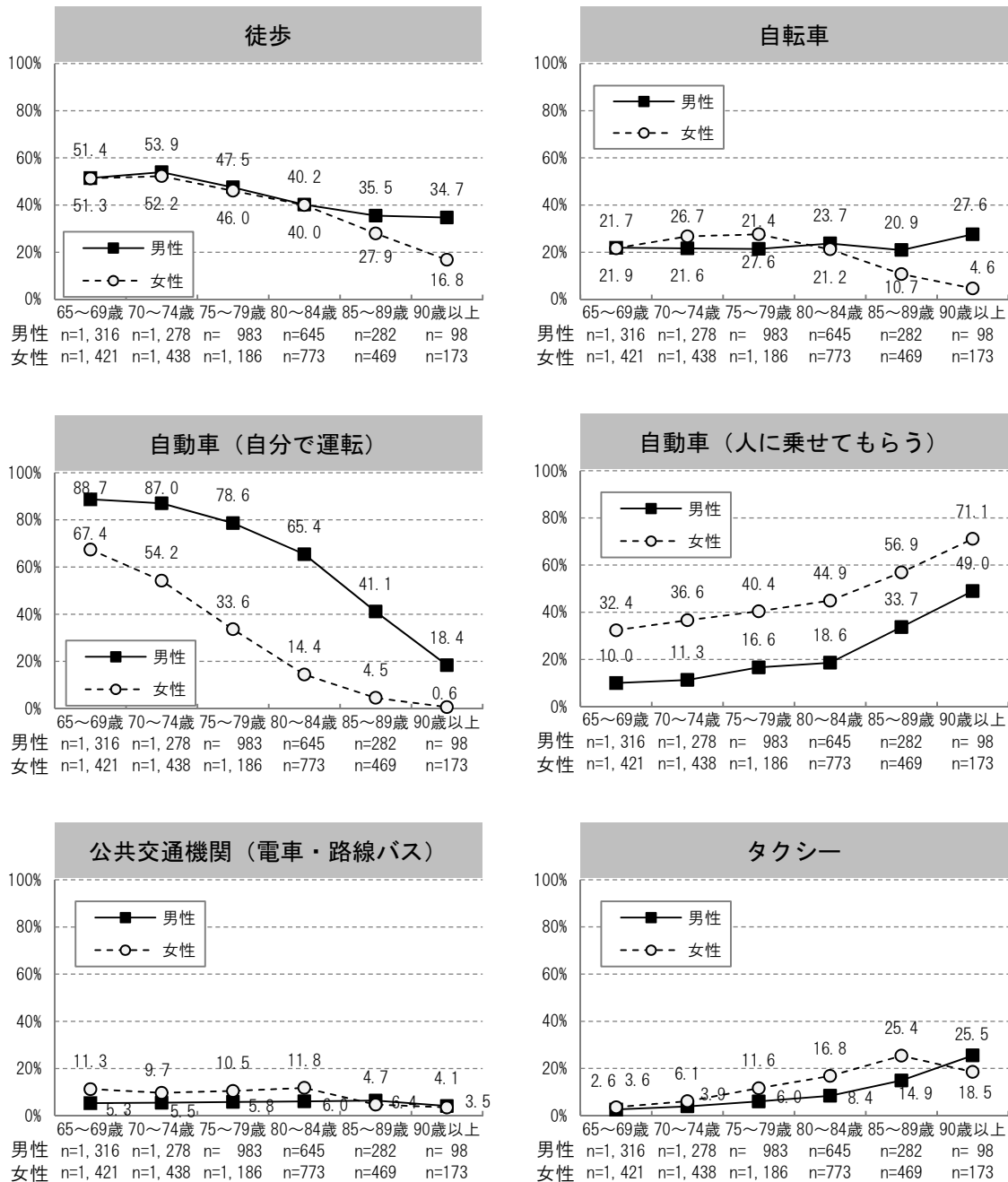


○外出する際の移動手段をそれぞれ性別年齢階級別にみると、「自転車」では男性の割合はほぼ横ばいなのに対し、女性は80歳以上で大きく低下します。

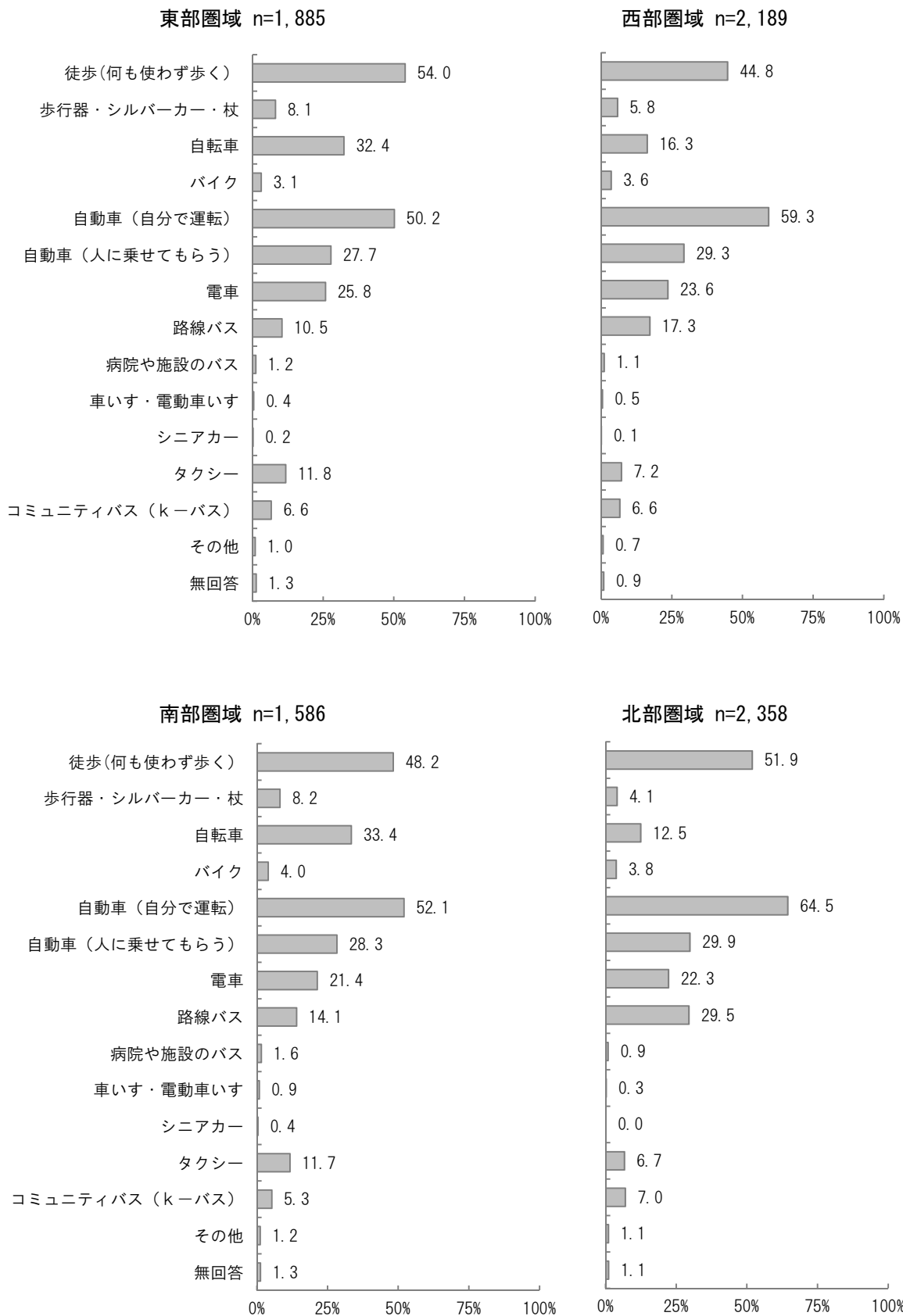
○「自動車（自分で運転）」では男女とも加齢とともに利用割合が低くなり、特に男性は85歳以上、女性は75歳以上で5割を下回ります。

○一方、「自動車（人に乗せてもらう）」では男性で1～2割台、女性で3～4割台と女性の割合が上回っています。

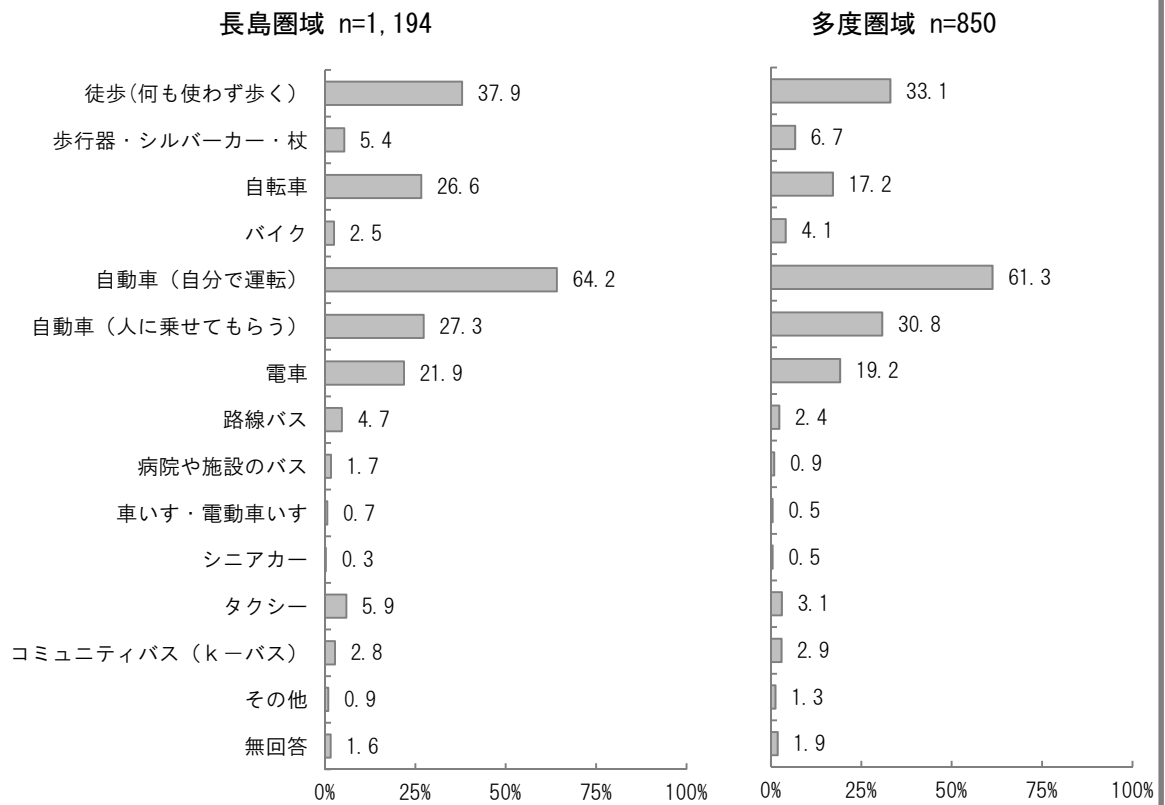
問2-(9) 性別年齢階級別移動手段



《参考》 圏域別にみた問2-(9) 外出する際の移動手段



《参考》 圏域別にみた問2-(9) 外出する際の移動手段



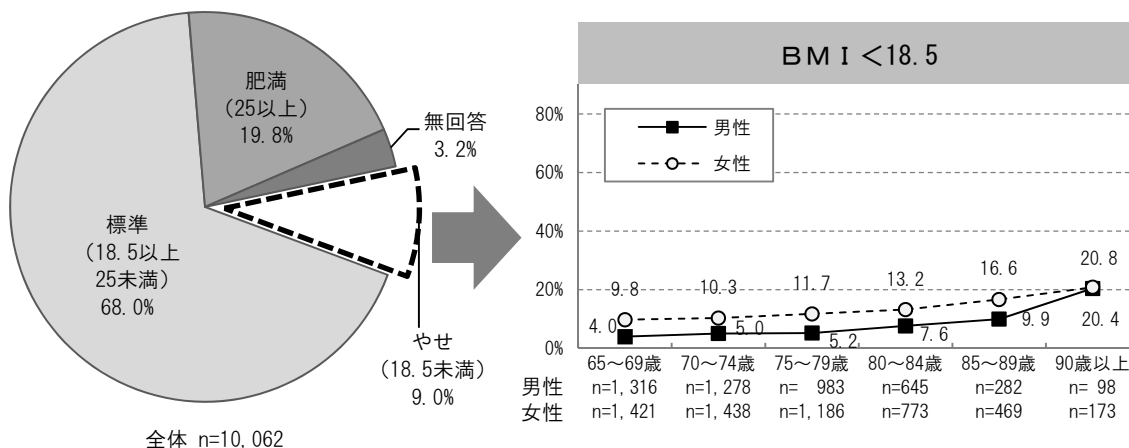
3 食べることについて

(1) 現在の体重 (BMI) 状況

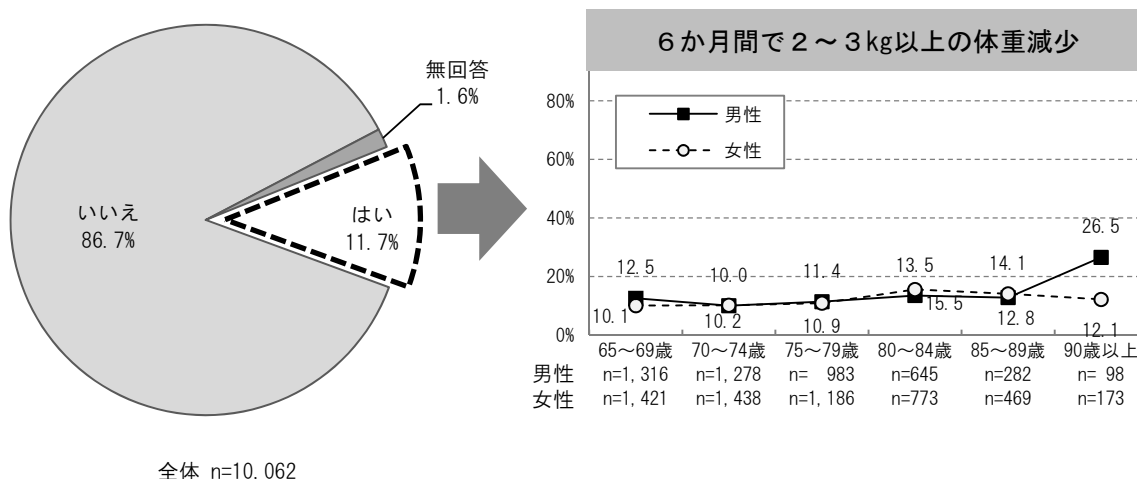
○BMIでは、「やせ(18.5未満)」の方が9.0%います。その該当者の性別年齢階級別では女性は年齢が上がるごとに割合が高くなり、男性は90歳以上で割合が上昇します。

○6か月間で2~3kg以上の体重減少の有無では、11.7%の方が減少したと回答しています。その該当者の性別年齢階級別ではほとんど男女の差はありませんが、男性は90歳以上で割合が高くなります。

問3-(1) BMI



問3-(2) 6か月間で2~3kg以上の体重減少の有無

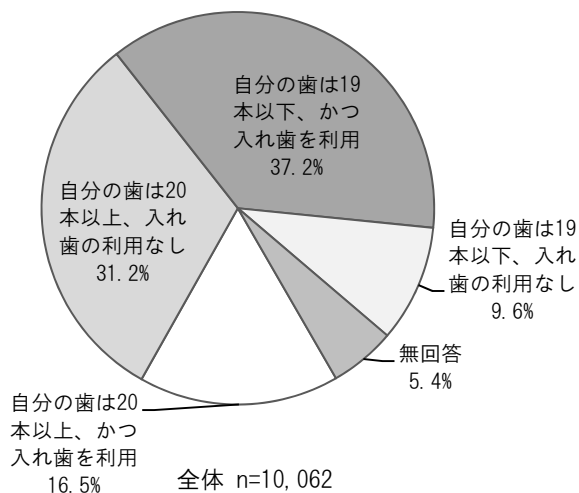


(2) 歯・口腔の状況

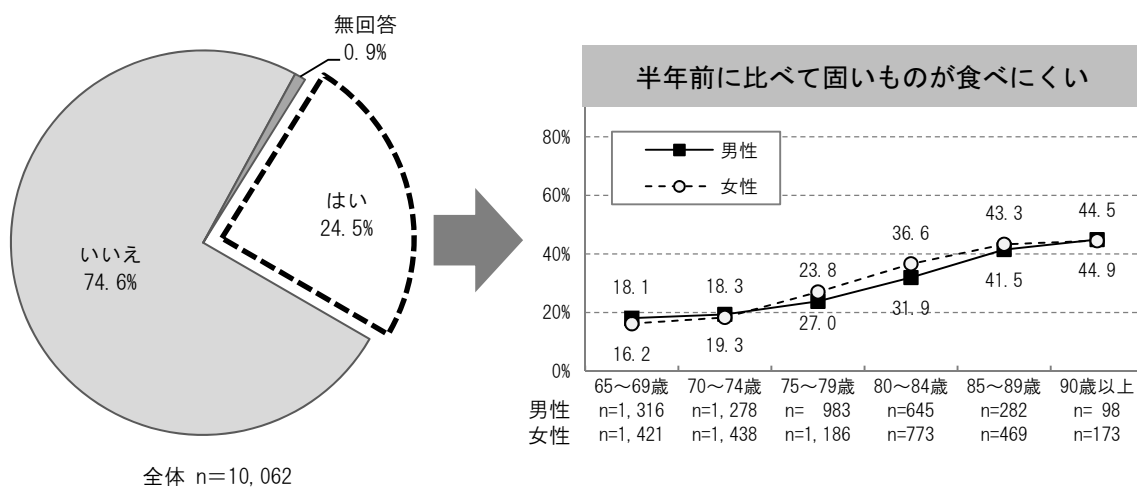
○歯の数と入れ歯の利用状況は、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」(37.2%)と「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」(16.5%)を合わせた 53.7%の方が入れ歯を利用しています。

○半年前に比べて固いものが食べにくくなったかでは、「はい」の方が 24.5%います。その該当者の性別年齢階級別では男女とも加齢とともに割合が高くなっています。

問3-(6) 歯の数と入れ歯の利用状況



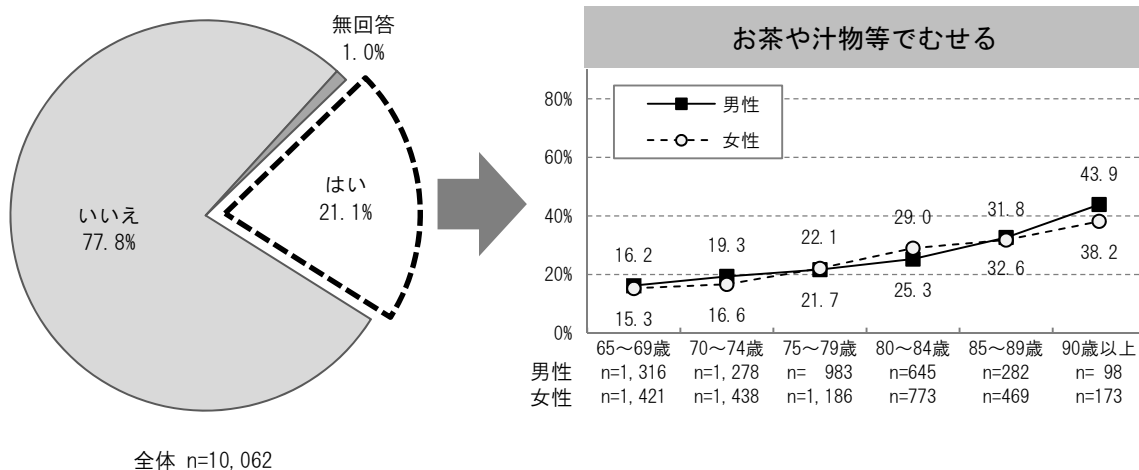
問3-(3) 半年前に比べて固いものが食べにくくなった



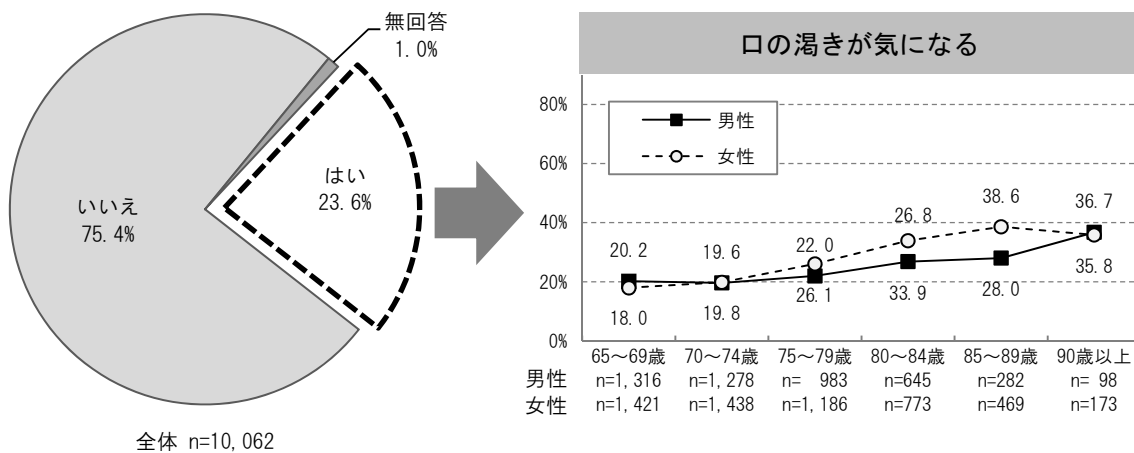
○お茶や汁物等でむせることの有無では、21.1%の方が有ると回答しています。その該当者の性別年齢階級別では加齢とともに割合が高くなっています。

○口の渇きが気になるかでは、23.6%の方が気になるかと回答しています。その該当者の性別年齢階級別では女性は85歳以上で割合が高くなっています。

問3-(4) お茶や汁物等でむせることの有無



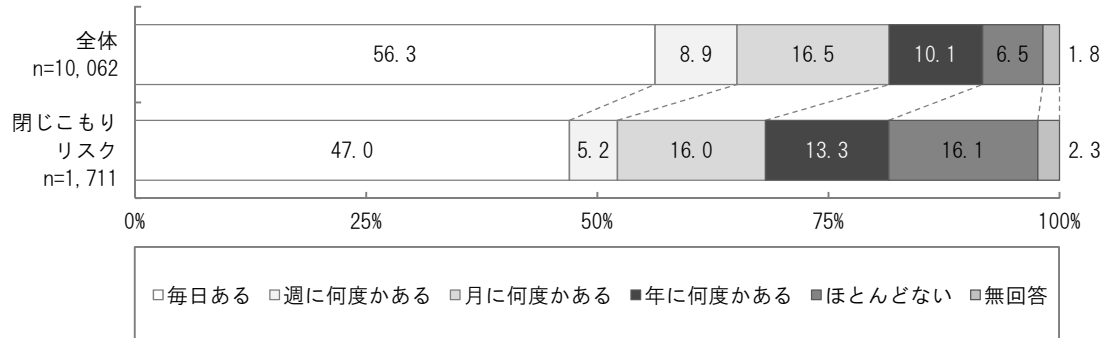
問3-(5) 口の渇きが気になるか



(3) 食事の状況

○どなたかと食事をとにもする機会の有無では、全体・閉じこもりリスク者ともに「毎日ある」(全体 56.3%・リスク該当者 47.0%) が最も多いものの、「ほとんどない」では閉じこもりリスク者で 16.1%となっており、全体を約 10^{ポイント}上回る状況です。

問3-(7) どなたかと食事をとにもする機会の有無 (×「閉じこもりリスク者」)



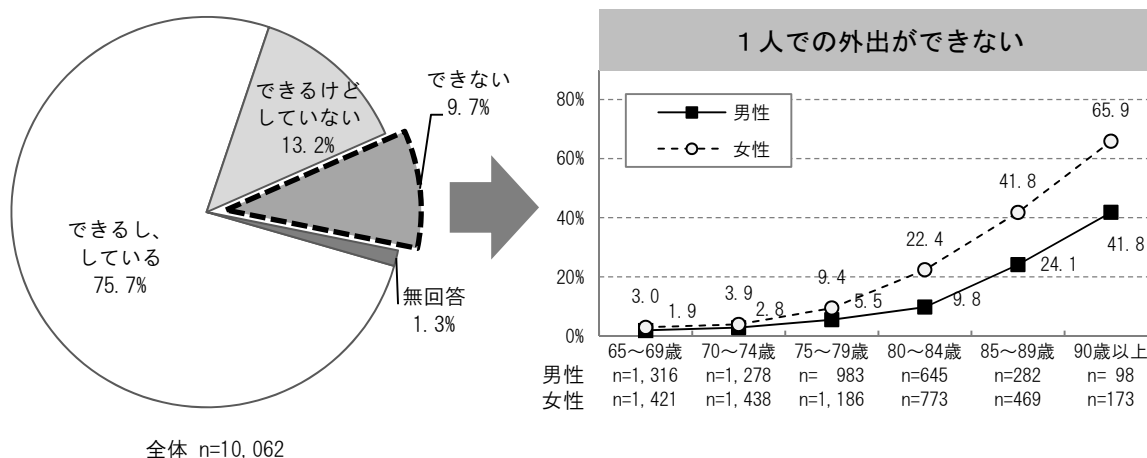
4 毎日の生活について

(1) IADL（手段的自立度）の状況

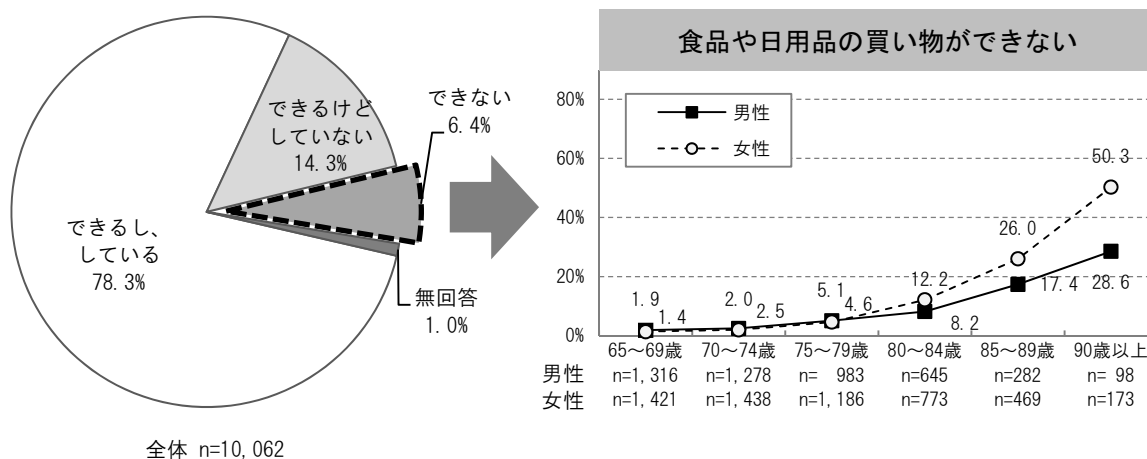
○バスや電車を使って1人で外出しているかでは、「できない」方が9.7%います。その該当者の性別年齢階級別では女性は80歳以上、男性は85歳以上で割合が大きく上昇します。

○自分で食品・日用品の買物をしているかでは、「できない」方が6.4%います。その該当者の性別年齢階級別では男女ともに85歳以上で割合が高くなっています。

問4-(2) バスや電車を使って1人で外出しているか



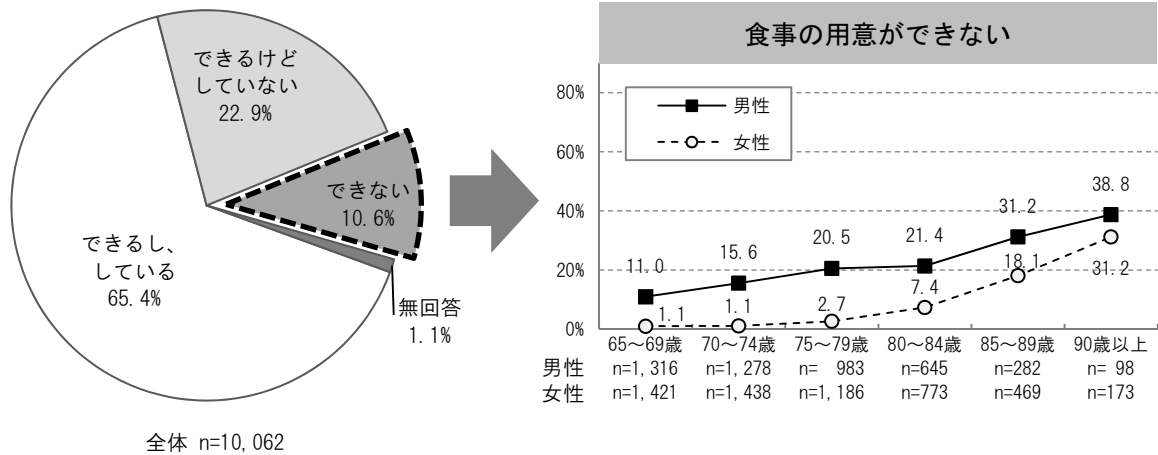
問4-(3) 自分で食品・日用品の買物をしているか



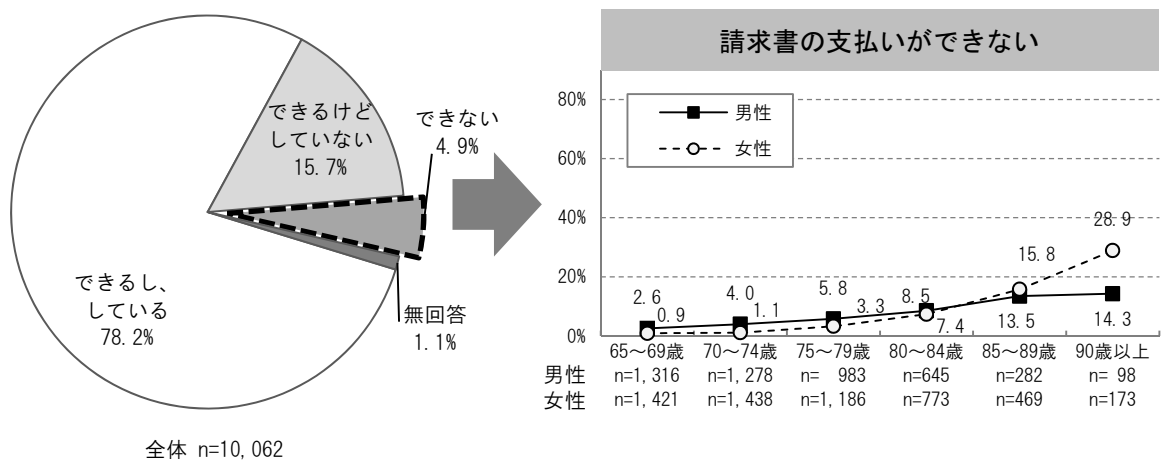
○自分で食事の用意をしているかでは、「できない」方が10.6%います。その該当者の性別年齢階級別では男女ともに85歳以上で割合が高くなっています。

○自分で請求書の支払いをしているかでは、「できない」方が4.9%います。その該当者の性別年齢階級別では90歳以上で女性の割合が高くなっています。

問4-(4) 自分で食事の用意をしているか

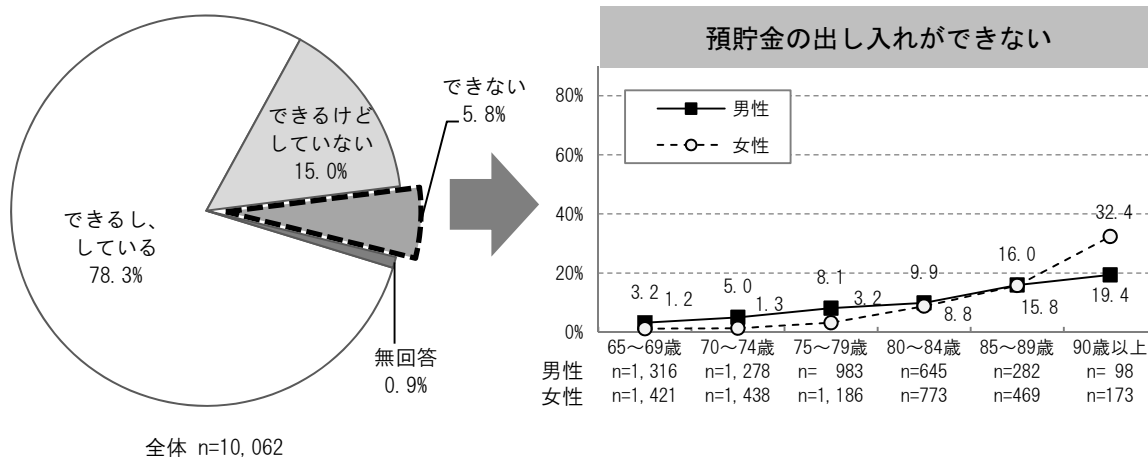


問4-(5) 自分で請求書の支払いをしているか



○自分で預貯金の出し入れをしているかでは、「できない」方が5.8%います。その該当者の性別年齢階級別ではほとんどの年齢階級であまり差はありません。

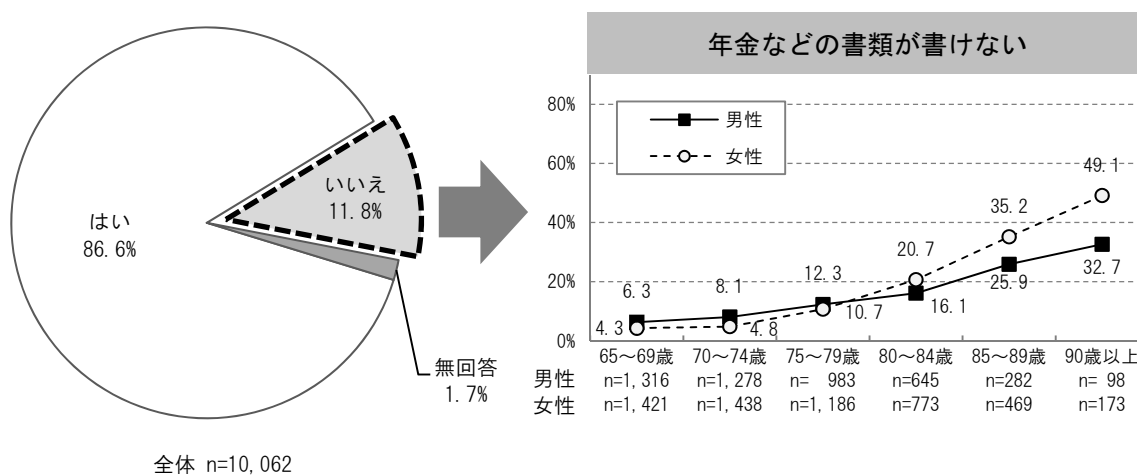
問4-(6) 自分で預貯金の出し入れをしているか



(2) 社会参加（知的能動性）の状況

○年金などの書類が書けるかでは、11.8の方が書けないと回答しています。その該当者の性別年齢階級別では男女とも加齢とともに割合が高くなり、85歳以上で上昇幅が大きくなります。

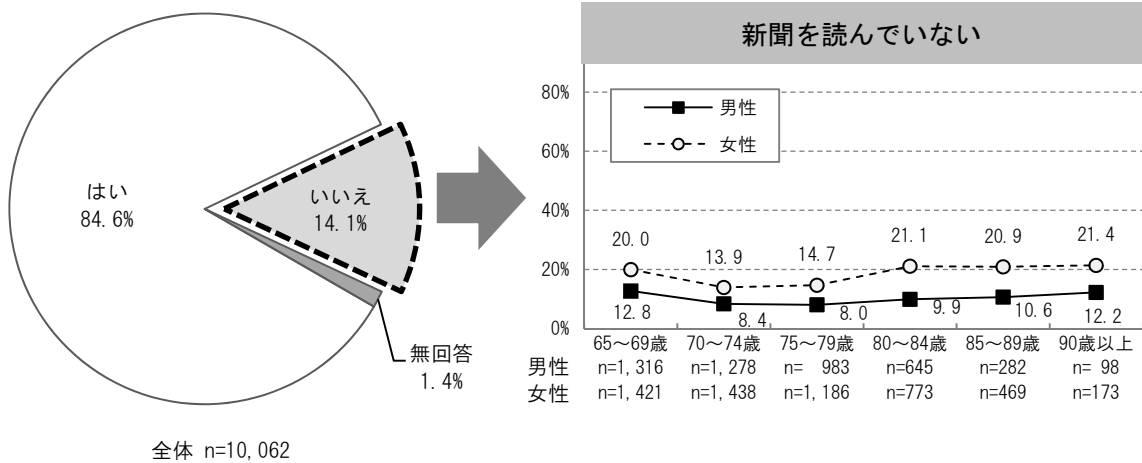
問4-(10) 年金などの書類が書けるか



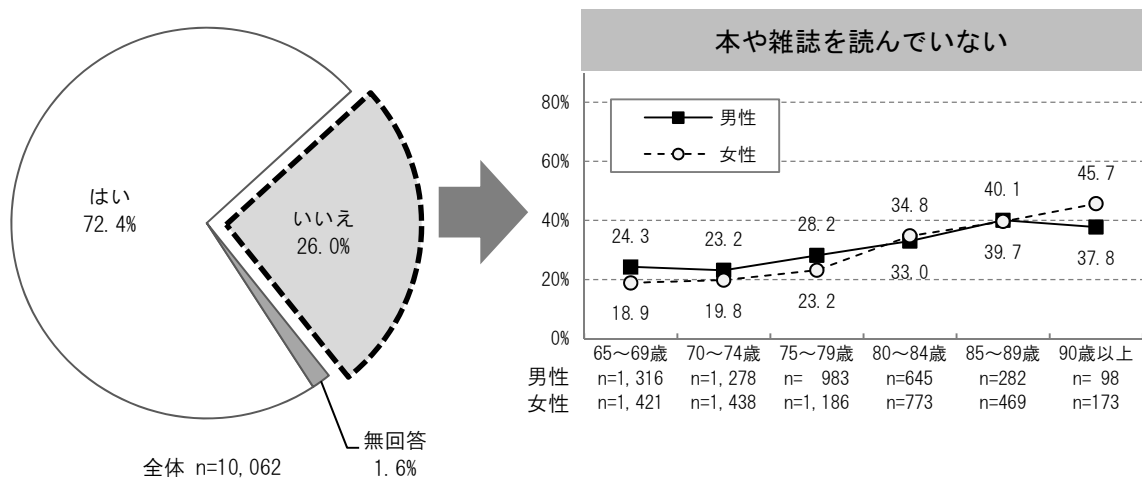
○新聞を読んでいるかでは、「いいえ」の方が14.1%います。その該当者の性別年齢階級別では全年齢階級で女性の割合が男性を上回っています。

○本や雑誌を読んでいるかでは、「いいえ」の方が26.0%います。その該当者の性別年齢階級別では男女とも加齢とともに割合が高くなっていきます。

問4-(11) 新聞を読んでいるか

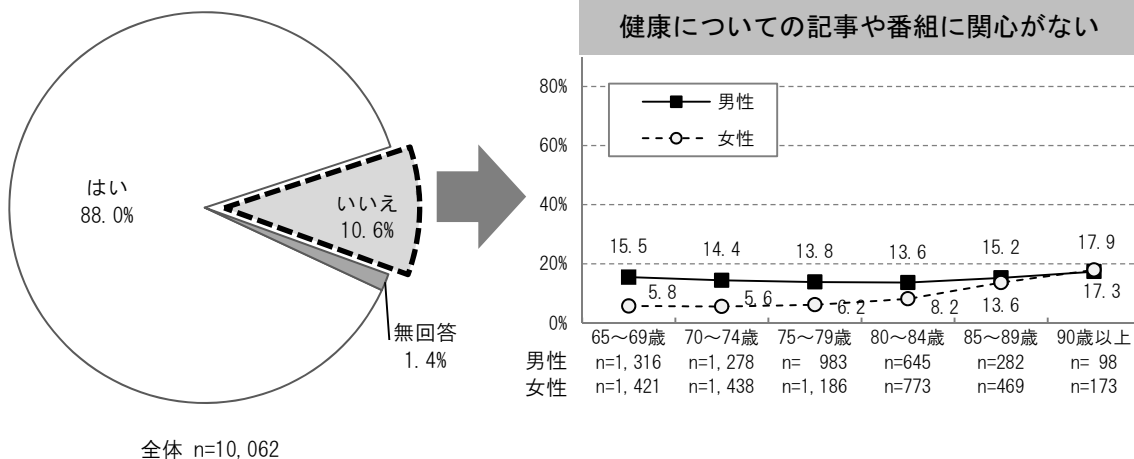


問4-(12) 本や雑誌を読んでいるか



○健康についての記事や番組に関心があるかでは、「いいえ」の方が10.6%います。その該当者の性別年齢階級別では男性はほぼ横ばいですが、女性は85歳以上で割合が高くなっています。

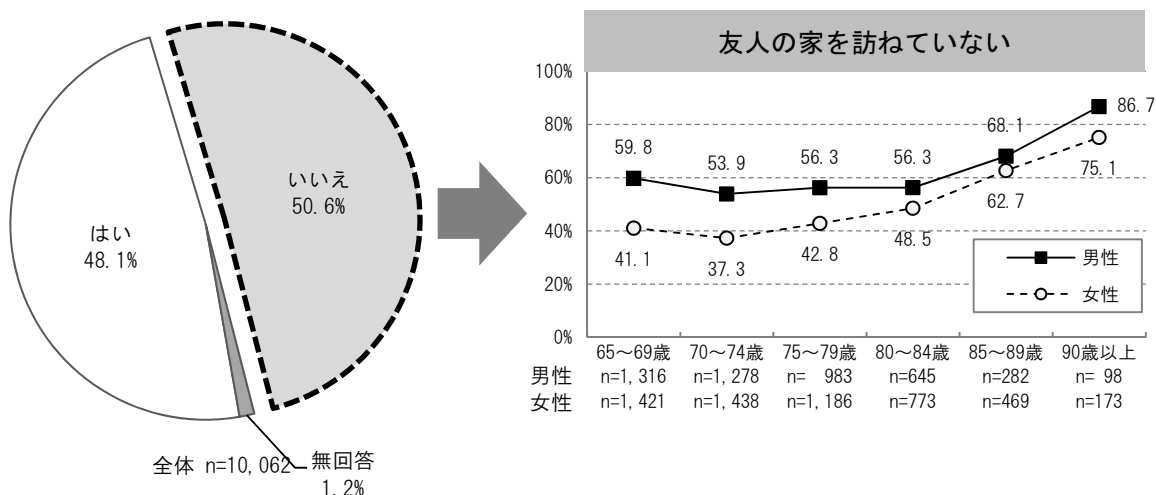
問4-(13) 健康についての記事や番組に関心がありますか



(3) 社会参加（社会的役割）の状況

○友人の家を訪ねているかでは、「いいえ」の方が50.6%います。その該当者の性別年齢階級別では全年齢階級で男性の割合が女性を上回っています。

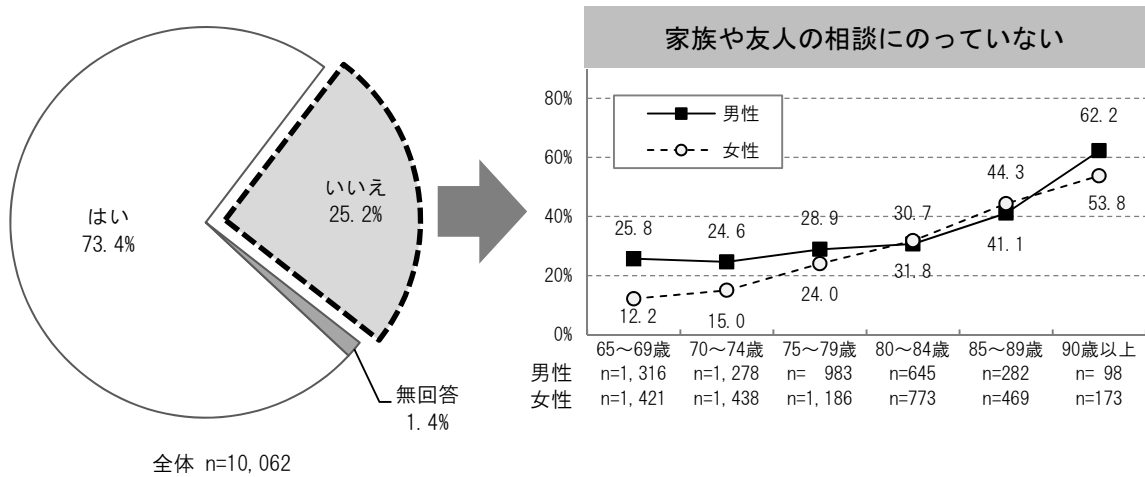
問4-(14) 友人の家を訪ねているか



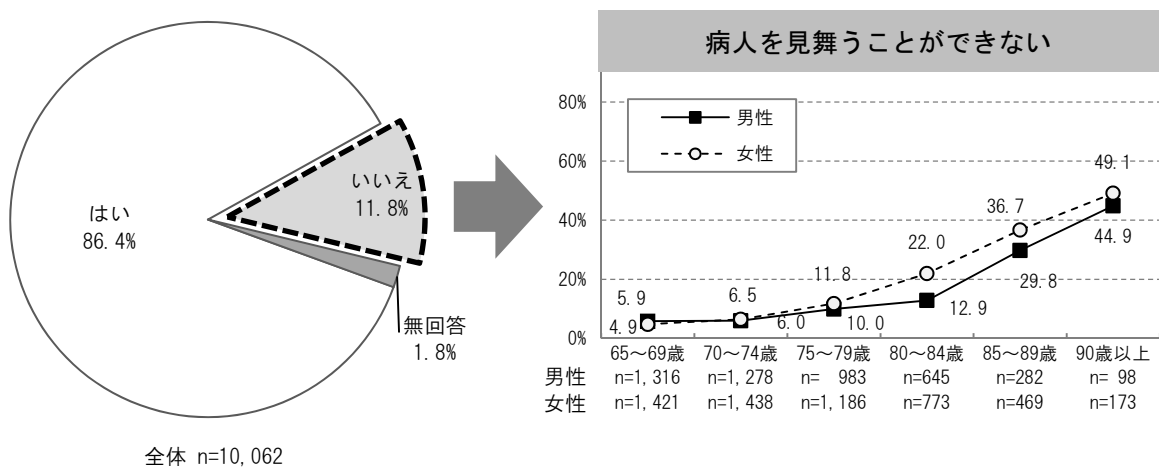
○家族や友人の相談にのっているかでは、「いいえ」の方が 25.2%います。その該当者の性別年齢階級別では男性は 84 歳まではあまり変化はなく、85 歳以上で高くなっています。女性は年齢が上がるごとに割合が高くなっています。

○病人を見舞うことができるかでは、「いいえ」の方が 11.8%います。その該当者の性別年齢階級別では男性は 85 歳以上から、女性は 80 歳以上から割合が高くなっています。

問4-(15) 家族や友人の相談にのっているか

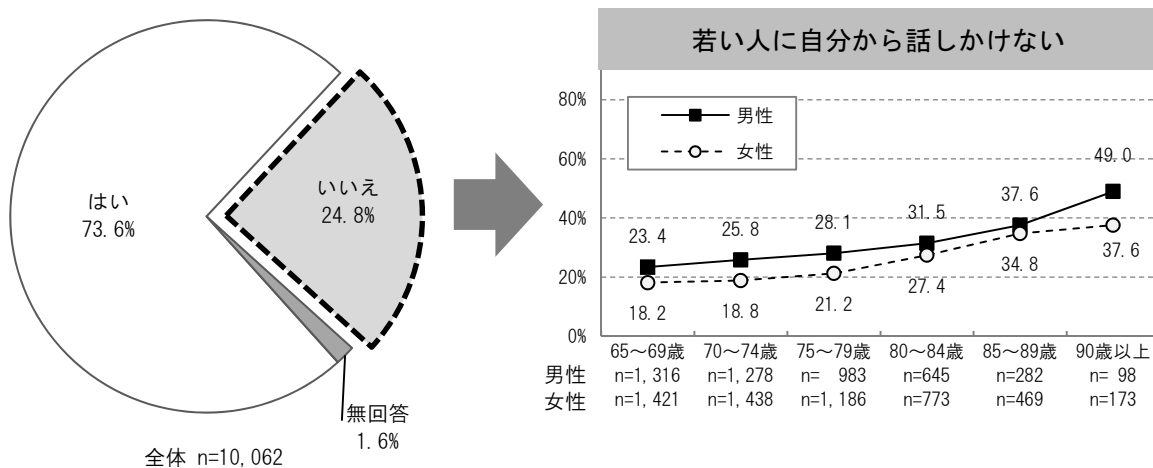


問4-(16) 病人を見舞うことができるか



○若い人に自分から話しかけることはあるかでは、「いいえ」の方が24.8%います。その該当者の性別年齢階級別では加齢とともに割合が高くなっています。

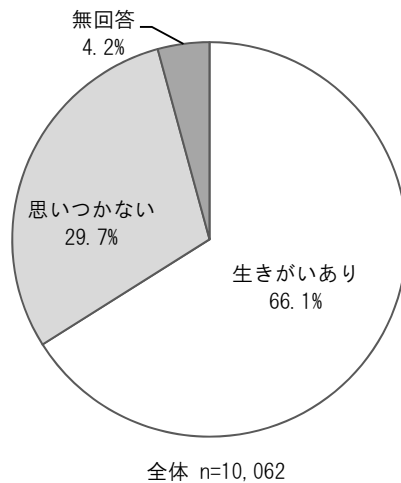
問4-(17) 若い人に自分から話しかけることはあるか



(4) ころの健康状態

○生きがいの有無では、66.1%の方があると回答しています。

問4-(22) 生きがいはあるか

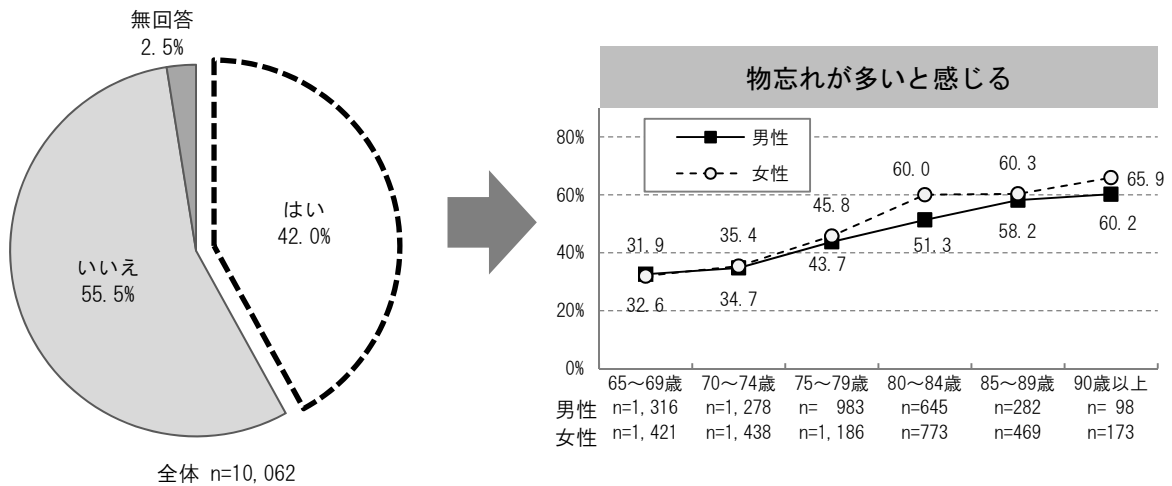


(5) 物忘れの状況

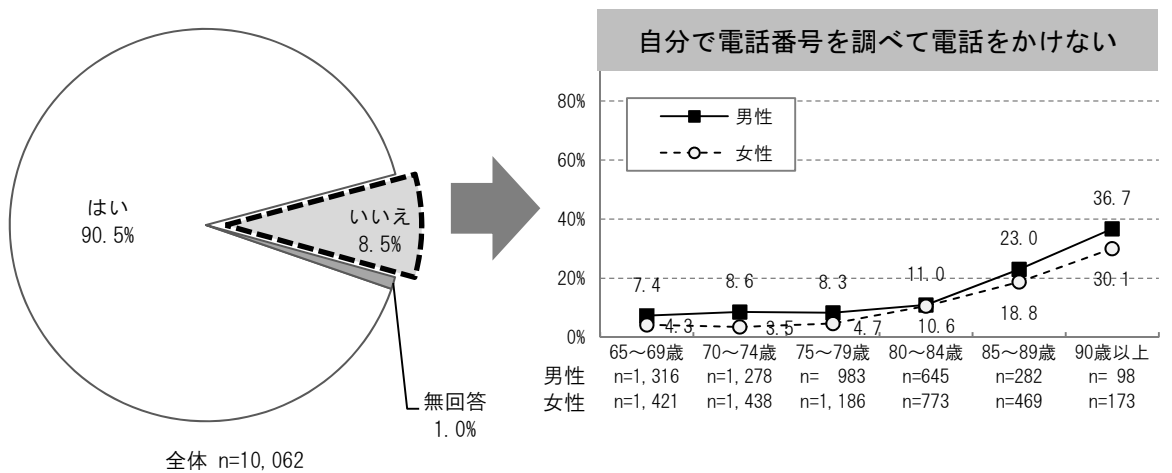
○物忘れが多いと感じるかでは、「はい」の方が42.0%います。その該当者の性別年齢階級別では男女とも全年齢階級で30%を超え高くなっています。

○自分で電話番号を調べて電話をかけるかでは、「いいえ」の方が8.5%います。その該当者の性別年齢階級別では男女ともに85歳以上で割合が高くなっています。

問4-(1) 物忘れが多いと感じるか



問4-(8) 自分で電話番号を調べて電話をかけるか



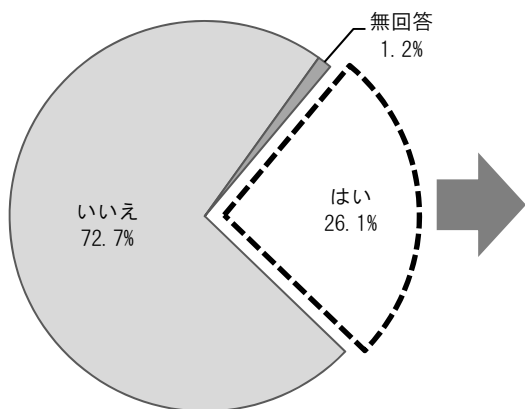
○今日が何月何日かわからない時があるかでは、26.1%の方が「はい」と回答しています。

その該当者の性別年齢階級別では男女とも加齢とともに割合が高くなっています。

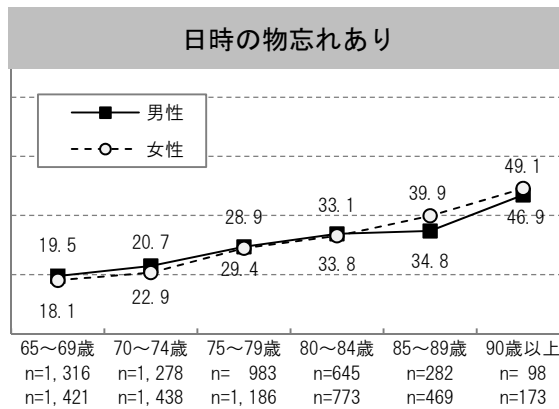
○いつも同じことを聞くなどといわれるかでは、18.8%の方が「はい」と回答しています。

○5分前に自分が何をしていたか思い出せるかでは、4.6%の方が思い出せないと回答しています。

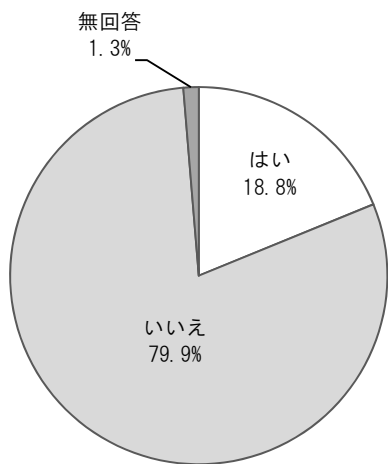
問4-(9) 今日が何月何日かわからない時があるか



全体 n=10,062

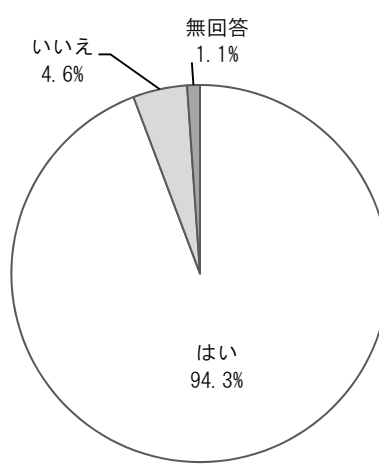


問 4-(7) いつも同じことを聞くなどといわれるか



全体 n=10,062

問 4-(18) 5分前に自分が何をしていたか思い出せるか



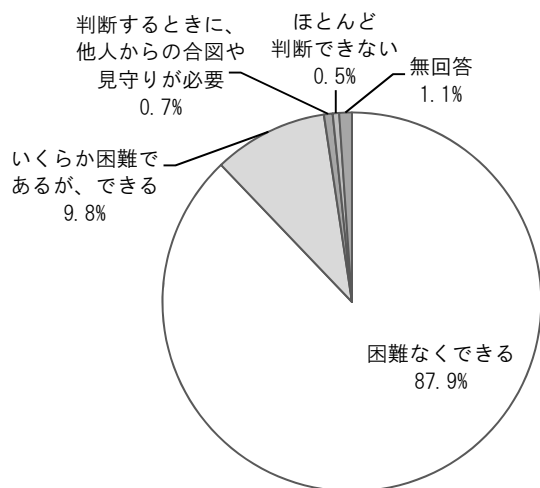
全体 n=10,062

○その日の活動を自分で判断できるかでは、「判断するとき、他人からの合図や見守りが必要」な方は0.7%、「ほとんど判断できない」方は0.5%います。

○人に自分の考えをうまく伝えられるかでは、「あまり伝えられない」方は2.6%、「ほとんど伝えられない」方は0.4%います。

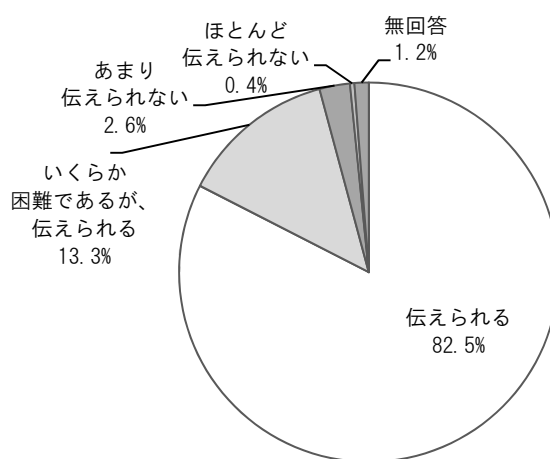
○食事は自分で食べることができるかでは、「一部介助（おかずを切ってもらなど）があればできる」方は0.8%、「できない」方は0.1%います。

問4-(19) その日の活動を自分で判断できるか



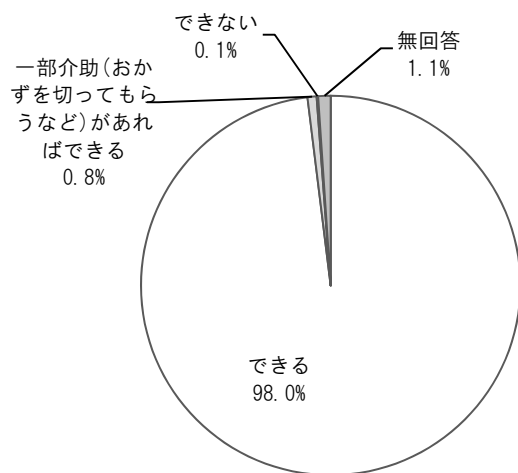
全体 n=10,062

問4-(20) 人に自分の考えをうまく伝えられるか



全体 n=10,062

問4-(21) 食事は自分で食べることができるか



全体 n=10,062

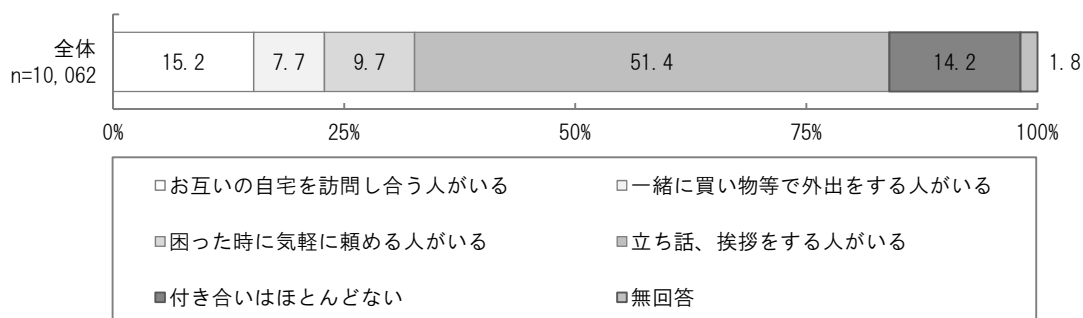
5 地域での活動について

(1) 地域とのかかわり

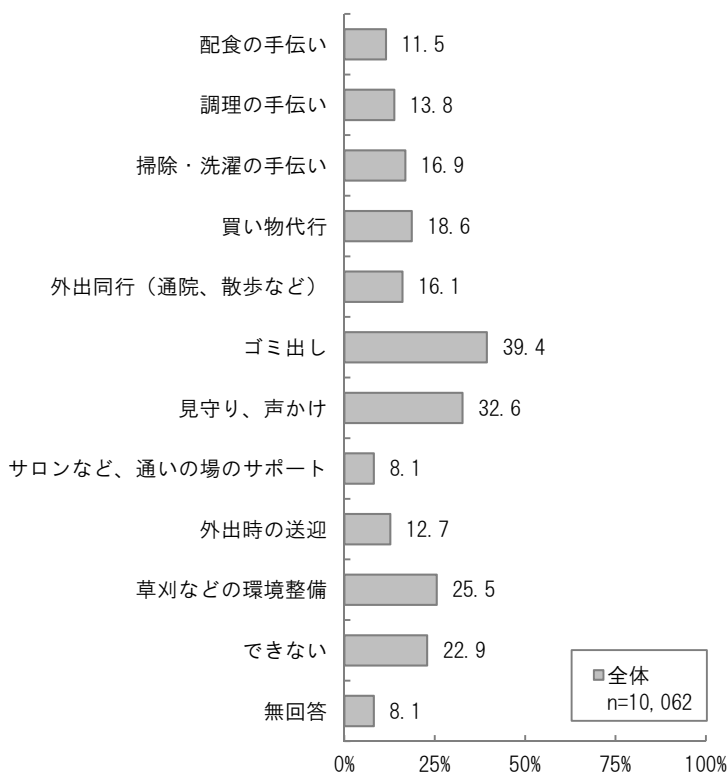
○地域の人との付き合いでは、「立ち話、挨拶をする人がいる」(51.4%)が最も高く、次いで「お互いの自宅を訪問し合う人がいる」(15.2%)となっています。

○地域でできる支援では、「ゴミ出し」(39.4%)が最も多く、次いで「見守り・声かけ」(32.6%)、「草刈りなどの環境整備」(25.5%)、「買い物代行」(18.6%)の順となっています。一方、「できない」方は22.9%います。

問5-(1) 地域の人との付き合い



問5-(2) 地域でできる支援



(2) グループ活動等の状況

○グループ等への参加頻度をみると、週1回以上の就労または参加している方は「⑦収入のある仕事」(19.7%)、「②スポーツ関係のグループやクラブ」(13.7%)、「③趣味関係のグループ」(10.6%)となっています。

問5-(3) グループ等への参加頻度

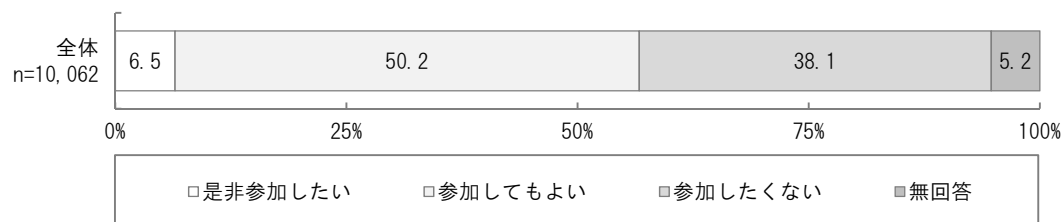
全体 n=10,062	週4回以上	週2〜3回	週1回	月1〜3回	年に数回	参加していない	無回答
①ボランティアのグループ	0.6%	1.2%	1.3%	3.5%	4.6%	60.0%	28.8%
②スポーツ関係のグループやクラブ	2.8%	6.5%	4.4%	4.4%	2.4%	52.8%	26.7%
③趣味関係のグループ	1.3%	4.3%	5.0%	12.0%	5.2%	47.8%	24.5%
④学習・教養サークル	0.3%	0.9%	1.6%	4.8%	2.6%	59.6%	30.2%
⑤老人クラブ	0.2%	0.4%	0.6%	2.5%	6.7%	60.4%	29.1%
⑥町内会・自治会	0.4%	0.5%	0.8%	5.1%	31.0%	35.9%	26.4%
⑦収入のある仕事	12.1%	6.3%	1.3%	1.4%	1.3%	50.3%	27.2%

(3) 地域づくりに対する参加意向

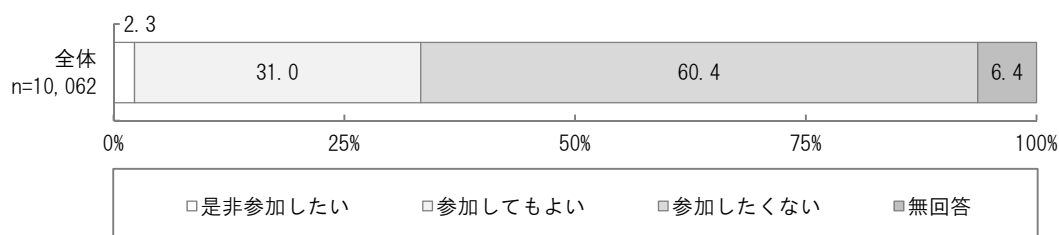
○参加者としてグループ活動等に参加してみたいかでは、「是非参加したい」(6.5%)と「参加してもよい」(50.2%)を合わせた56.7%の方が参加の意向です。

○企画・運営としてグループ活動等に参加してみたいかでは、「是非参加したい」(2.3%)と「参加してもよい」(31.0%)を合わせた33.3%の方が参加の意向です。一方、「参加したくない」は半数以上を占めています。

問5-(4) 参加者としてグループ活動等に参加してみたいか

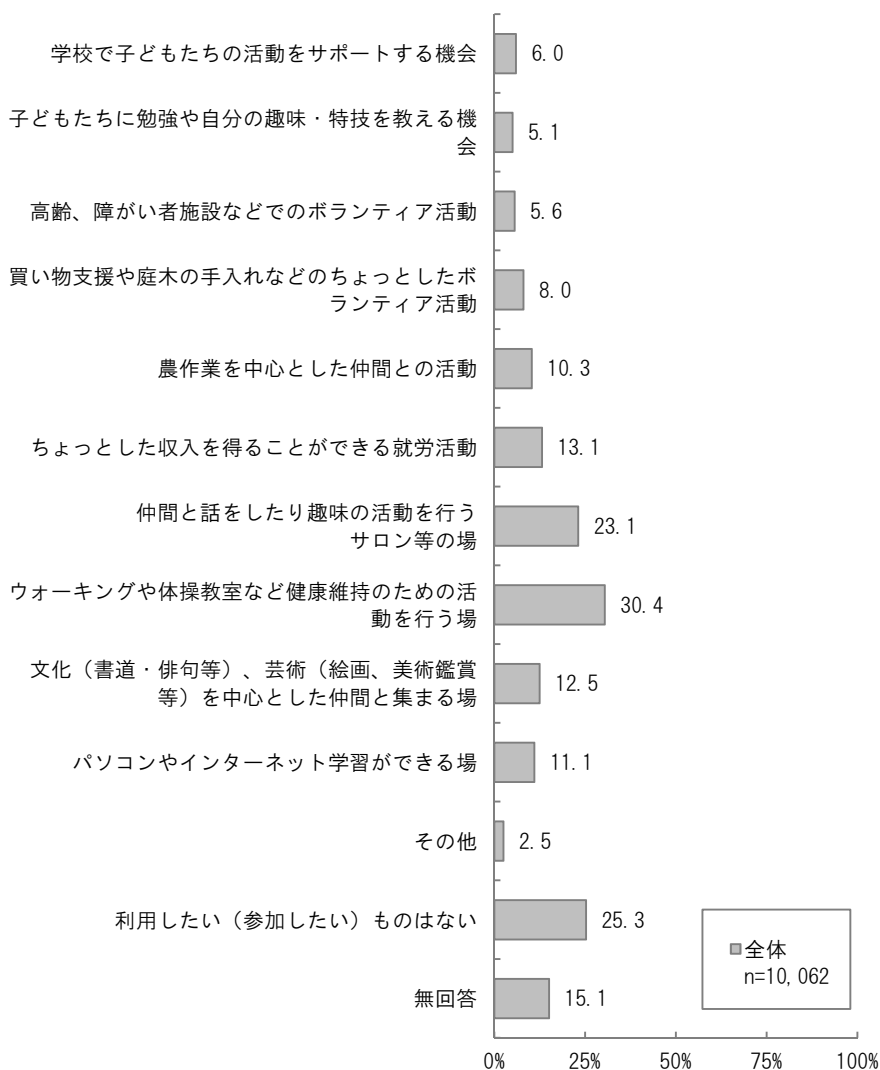


問5-(5) 企画・運営としてグループ活動等に参加してみたいか



○地域での活動の場や参加の機会のうち、利用したいと思うものをみると、「ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場」(30.4%)が最も高く、次いで「仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場」(23.1%)、「ちょっとした収入を得ることができる就労活動」(13.1%)となっています。一方、「利用したい(参加したい)ものはない」が25.3%となっています。

問5-(6) 地域での活動の場や参加の機会のうち、利用したいと思うもの

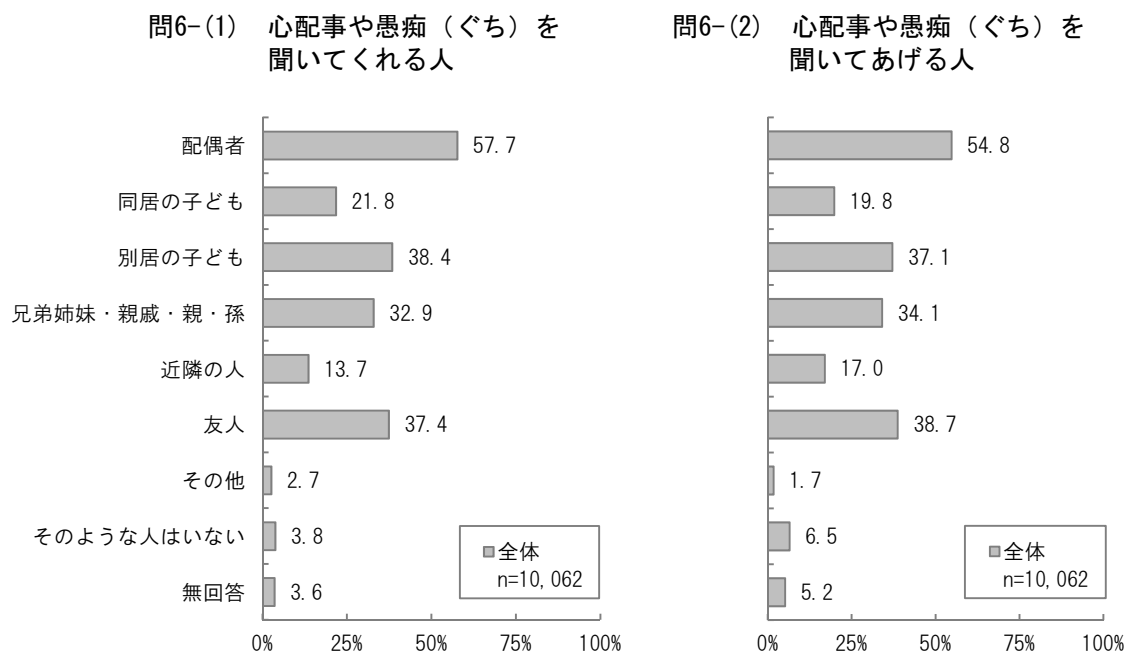


6 たすけあいについて

(1) 困った際に頼る相手または頼られる相手

○心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人は、「配偶者」(57.7%)が最も多く、次いで「別居の子ども」(38.4%)、「友人」(37.4%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(32.9%)の順となっています。一方、「そのような人はいない」方は3.8%います。

○心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人は、「配偶者」(54.8%)が最も多く、次いで「友人」(38.7%)、「別居の子ども」(37.1%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(34.1%)の順となっています。一方、「そのような人はいない」方は6.5%います。

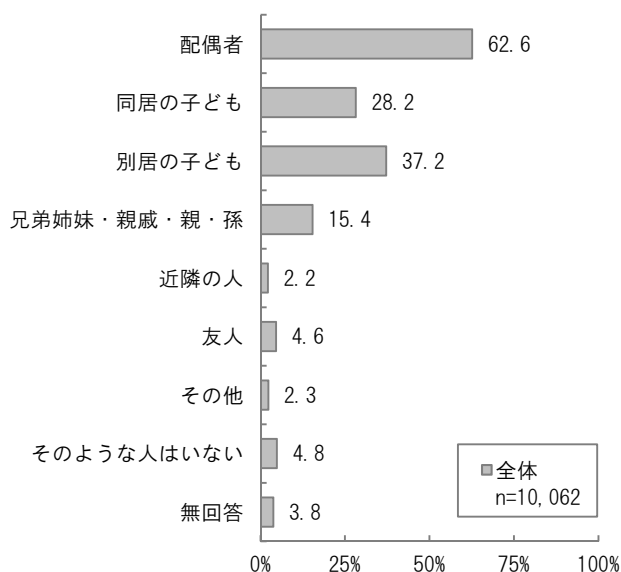


○病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」(62.6%) が最も高く、次いで「別居の子ども」(37.2%)、「同居の子ども」(28.2%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(15.4%) の順となっています。

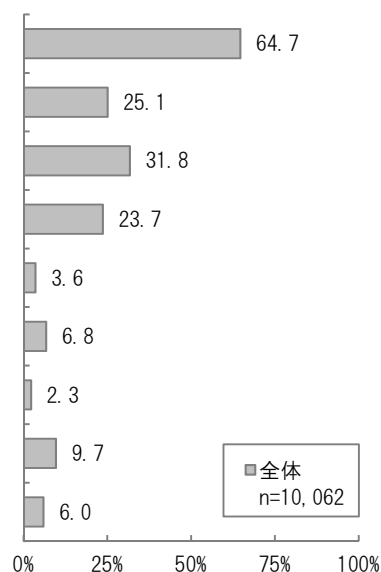
○看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」(64.7%) が最も高く、次いで「別居の子ども」(31.8%)、「同居の子ども」(25.1%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(23.7%) の順となっています。

○家族や友人・知人以外何かあったときに相談する相手は、「医師・歯科医師・看護師」(29.5%) が最も高く、次いで「市役所・区役所」(14.8%)、「自治会・町内会の役員など」(12.4%) の順となっています。また、「そのような人はいない」方は 34.5% います。

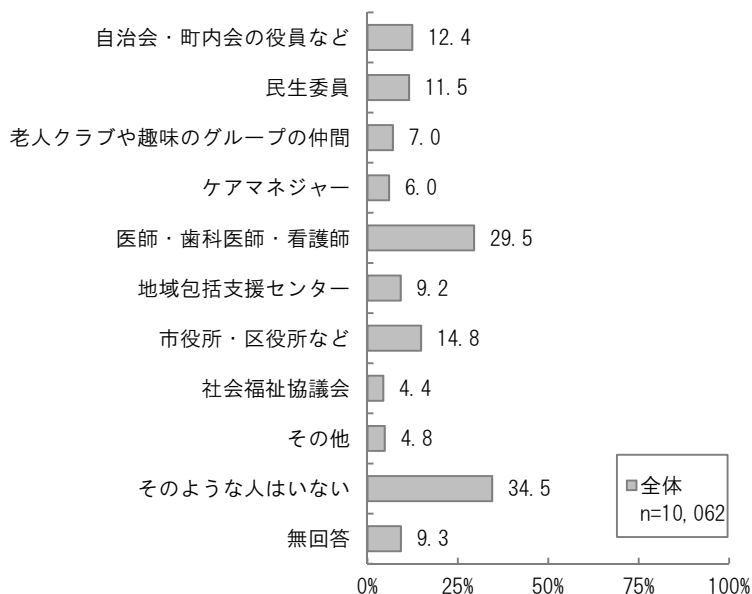
問6-(3) 病気で数日間寝込んだときに、
看病や世話をしてくれる人



問6-(4) 看病や世話をしてあげる人



問6-(5) 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手

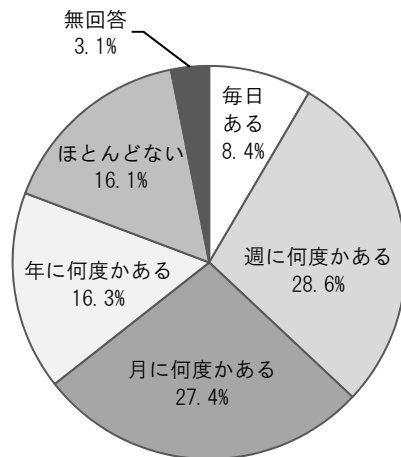


(2) 友人・知人との交流状況

○一友人・知人と会う頻度は、「週に何度かある」(28.6%)が最も高く、次いで「月に何度かある」(27.4%)となっています。

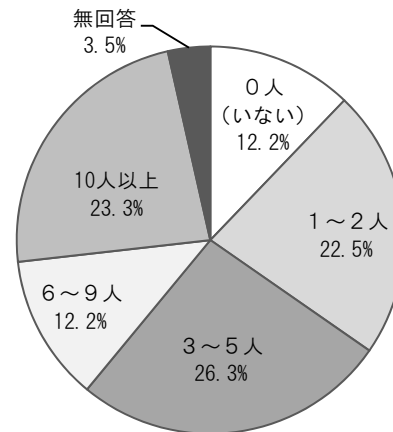
○1か月間、何人の友人・知人と会ったかでは、「3~5人」(26.3%)が最も多く、次いで「10人以上」(23.3%)となっています。

問 6-(6) 友人・知人と会う頻度



全体 n=10,062

問 6-(7) 何人の友人・知人と会ったか
(最近1か月間)



全体 n=10,062

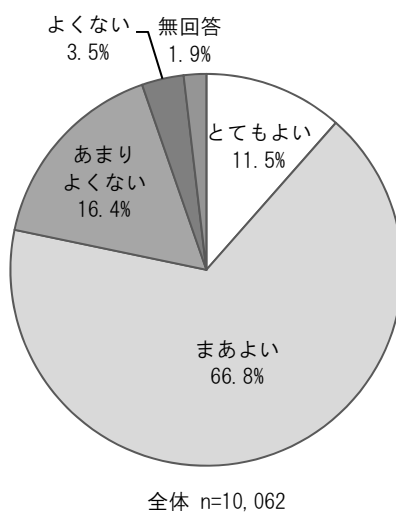
7 健康について

(1) 健康状態

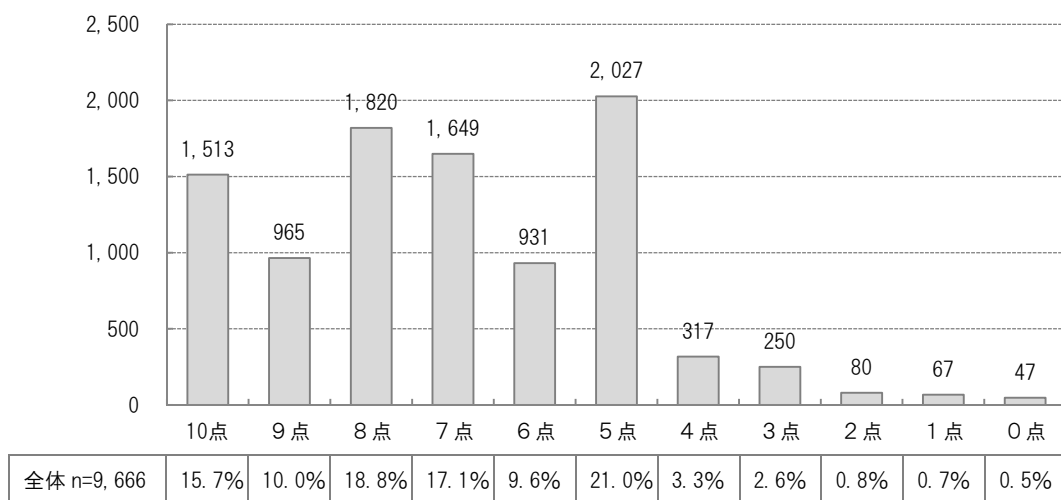
○調査対象者の現在の主観的健康感をみると、「まあよい」(66.8%)が最も高く、「とてもよい」(11.5%)を合わせた78.3%の方が健康と感じています。

○現在の主観的幸福感では、「5点」(21.0%)が最も高く、次いで「8点」(18.8%)、「7点」(17.1%)、「(とても幸せ)10点」(15.7%)の順となっています。

問7-(1) 現在の健康状態はいかがですか



問7-(2) 現在どの程度幸せですか



↓

平均点	7.0点
-----	------

(2) こころの健康状態

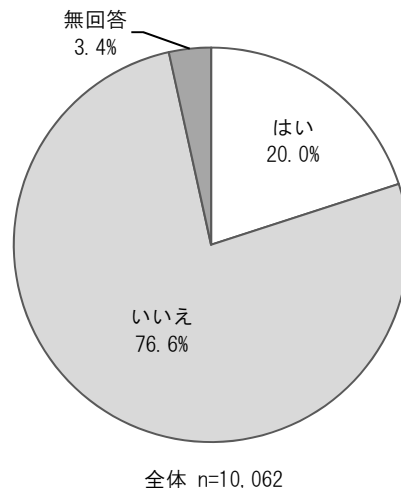
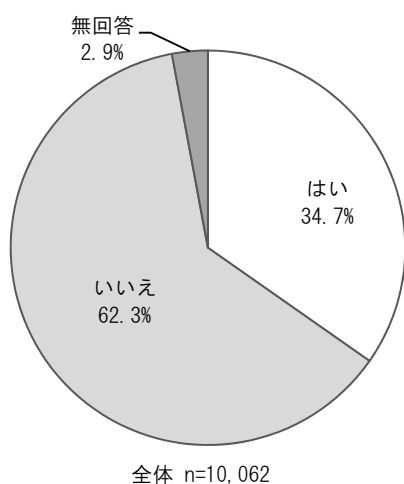
○この1か月間、気分が沈んだりすることの有無では、34.7%の方が有ると回答しています。

○この1か月間、物事に対して心から楽しめない感じの有無では、20.0%の方が「あった（楽しめなくなった）」と回答しています。

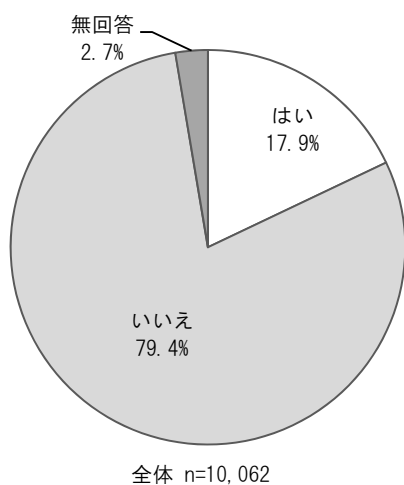
○（ここ2週間）毎日の生活に充実感がないかの有無では、17.9%の方が「あった（充実感がない）」と回答しています。

○（ここ2週間）これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなったかの有無では、13.2%の方が「あった（楽しめなくなった）」と回答しています。

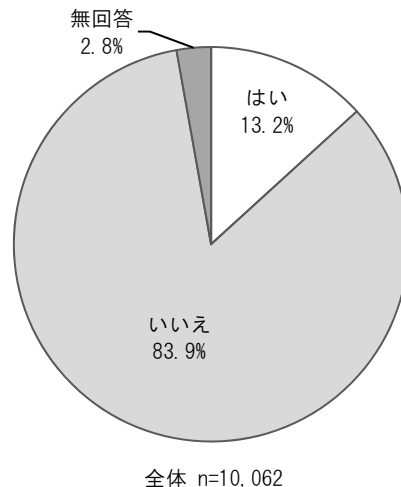
問7-(3) この1か月間、気分が沈んだりするか 問7-(4) この1か月間、物事に対して心から楽しめないか



問7-(5) （ここ2週間）毎日の生活に充実感がないか



問7-(6) （ここ2週間）これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなったか

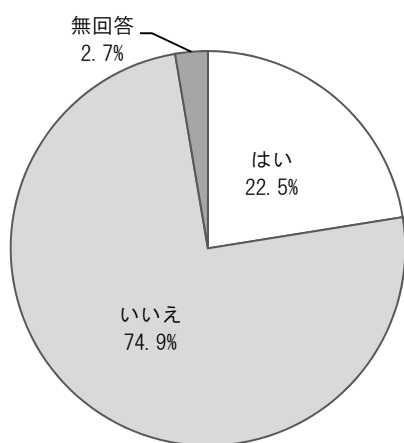


○（ここ2週間）以前は楽に出来ていたことが、今ではおっくうに感じられるかの有無では、22.5%の方が「あった（おっくうに感じる）」と回答しています。

○（ここ2週間）自分が役に立つ人間だと思えないかの有無では、19.8%の方が「あった（思う）」と回答しています。

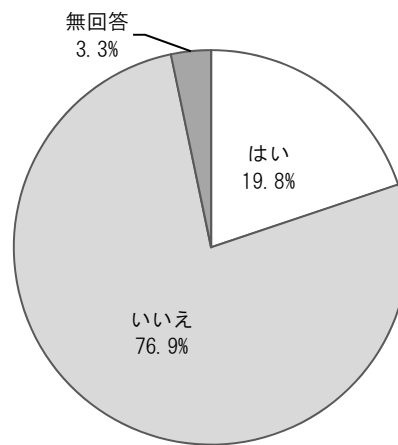
○（ここ2週間）わけもなく疲れたような感じがするかの有無では、22.9%の方が「あった（疲れたような感じがする）」と回答しています。

問7-(7) （ここ2週間）以前は楽に出来ていたことが、今ではおっくうに感じられるか



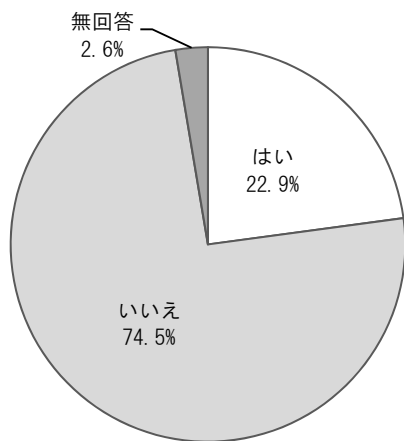
全体 n=10,062

問7-(8) （ここ2週間）自分が役に立つ人間だと思えないか



全体 n=10,062

問7-(9) （ここ2週間）わけもなく疲れたような感じがするか



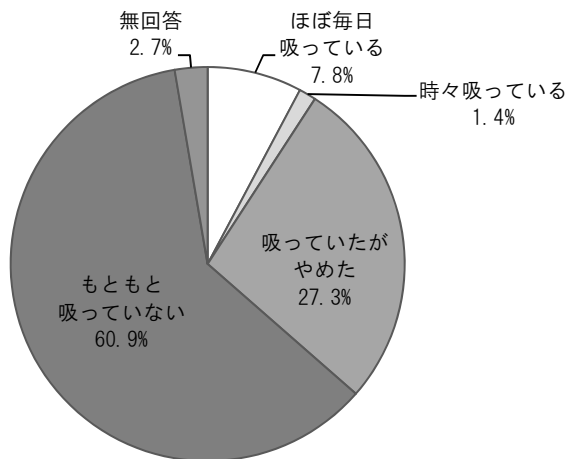
全体 n=10,062

(3) 疾病と喫煙や飲酒の関係

○喫煙の有無では、「ほぼ毎日吸っている」(7.8%)と「時々吸っている」(1.4%)を合わせた9.2%の方が吸っていると回答しています。

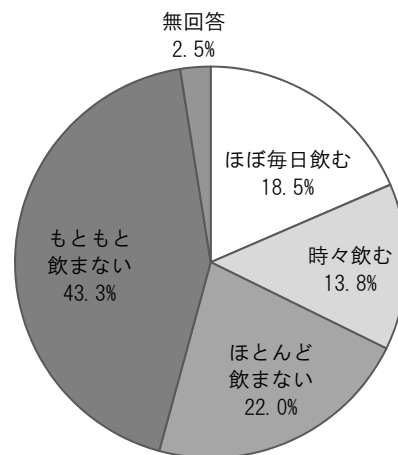
○飲酒の有無では、「ほぼ毎日飲む」(18.5%)と「時々飲む」(13.8%)を合わせた32.3%の方が飲んでいると回答しています。

問 7-(11) 喫煙の有無



全体 n=10,062

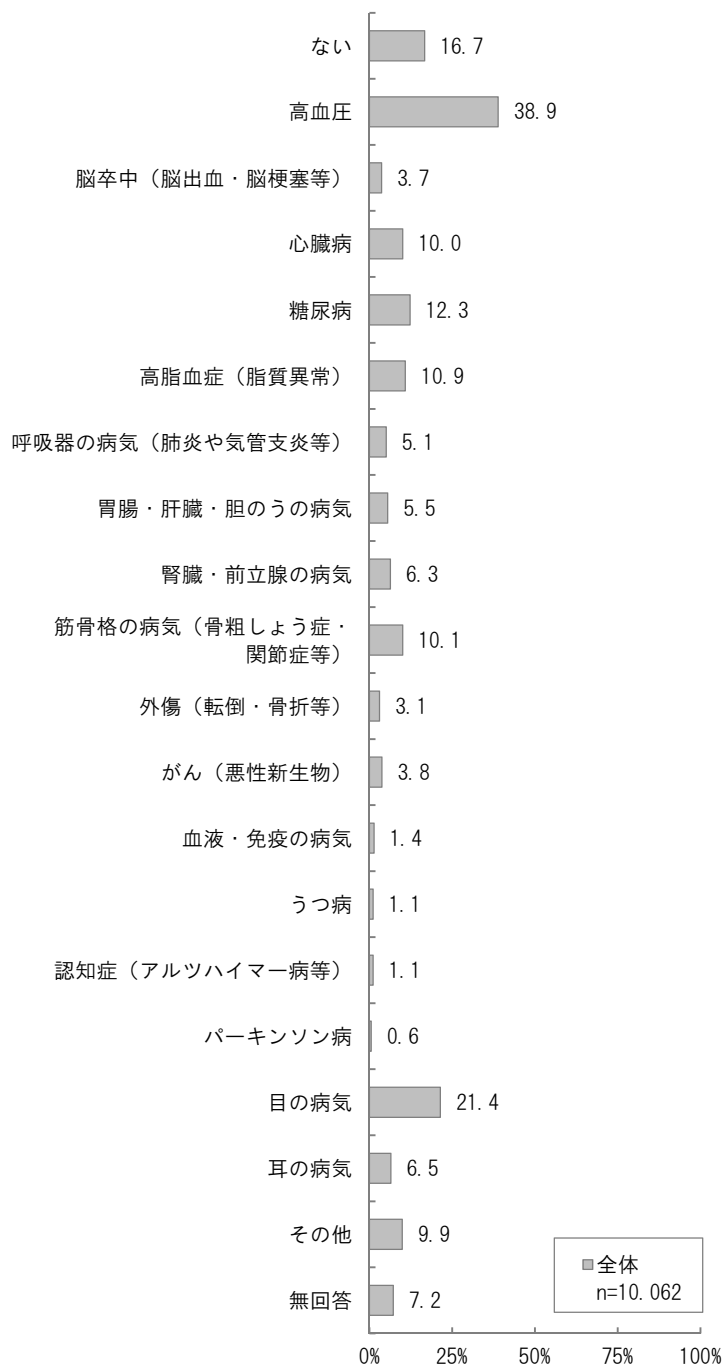
問 7-(12) 飲酒の有無



全体 n=10,062

○現在治療中、または後遺症のある病気の有無をみると、全体では「高血圧」(38.9%)が最も高く、次いで「目の病気」(21.4%)、「糖尿病」(12.3%)、「高脂血症(脂質異常)」(10.9%)の順となっています。

問7-(10) 現在治療中、または後遺症のある病気の有無



(4) 通院の状況

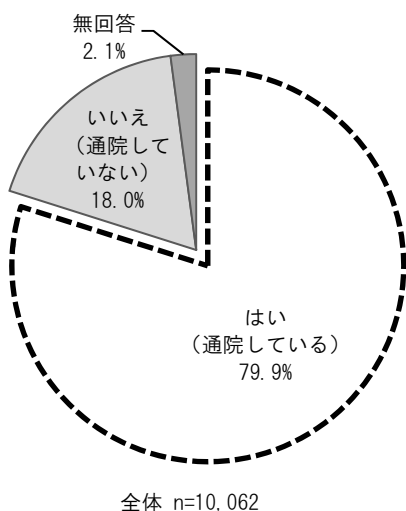
○通院の有無では、79.9%の方が通院していると回答しています。

○通院の頻度では、「月1回程度」(48.1%)と最も高く、次いで「2か月に1回程度」(16.8%)、「月2～3回」(12.3%)となっています。

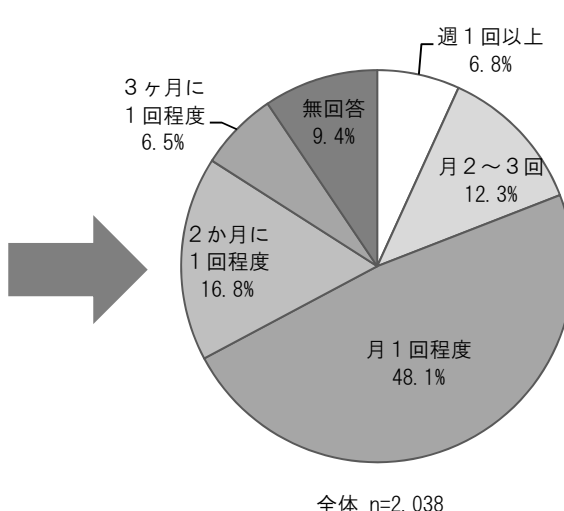
○飲んでいる薬の数では「5種類以上」(20.7%)が最も高くなっています。

○定期的な健康診査の受診では、「1年に1回は受けている」(61.2%)が最も高くなっています。

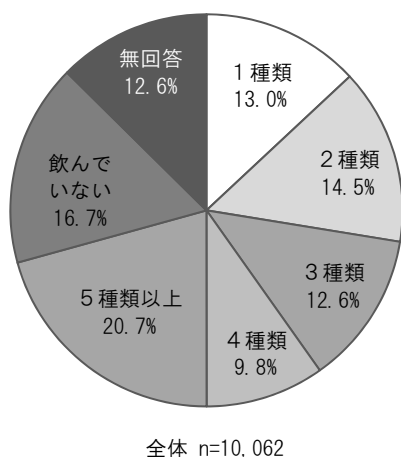
問 7-(13) 通院の有無



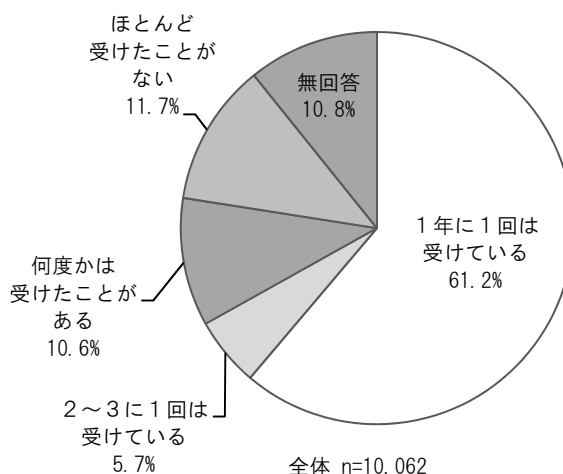
問 7-(13).① 通院の頻度



問 7-(14) 薬を何種類飲んでいるか



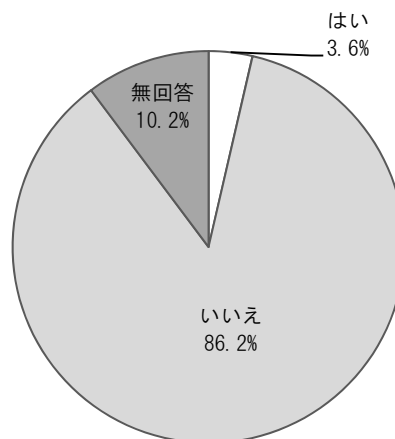
問 7-(15) 定期的な健康診査の受診



(5) サービスの利用状況

○在宅サービスの利用の有無では、86.2%の方が利用していないと回答しています。

問7-(16) 在宅サービスの利用の有無



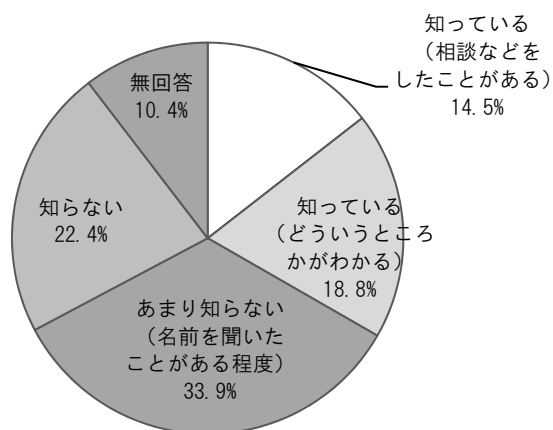
全体 n=10,062

8 地域包括ケアシステムについて

(1) 地域について

○地域包括支援センターの周知度をみると、「あまり知らない(名前を聞いたことがある程度)」が33.9%と最も高くなっています。

問8-(1) 地域包括支援センターの周知度



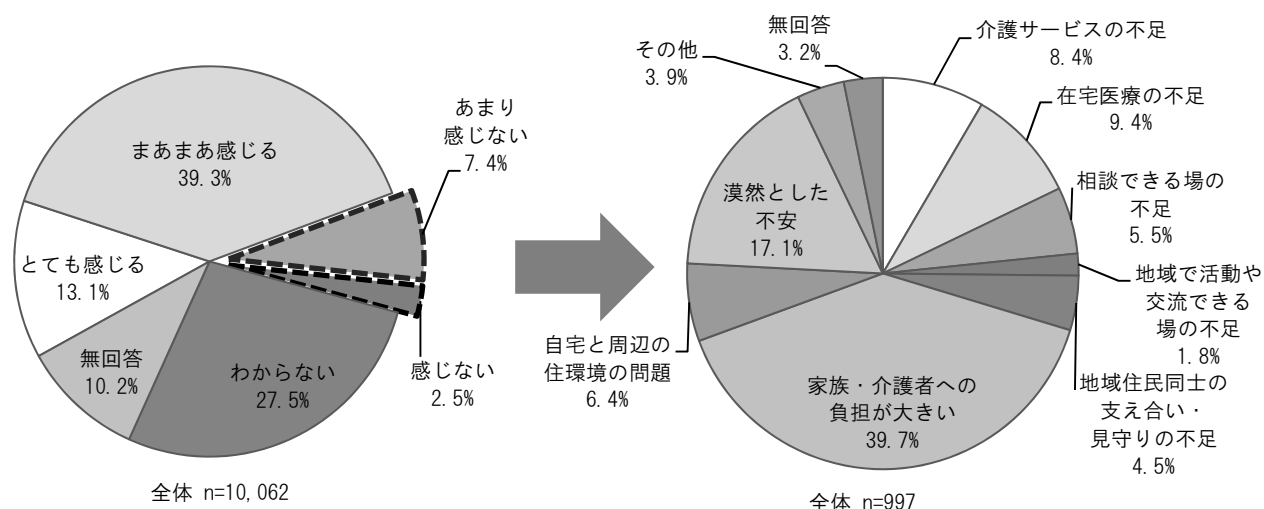
全体 n=10,062

(2) 地域での暮らしについて

○医療、介護サービスを受けながら地域で暮らし続けられるかをみると「まあまあ感じる」(39.3%)が最も高くなっています。

○「あまり感じない」「感じない」と回答した理由をみると、「家族・介護者への負担が大きい」が39.7%と最も高くなっています。

問8-(2) 医療、介護サービスを受けながら地域で暮らし続けられるか 問8-(2).① 「あまり感じない」「感じない」と回答した理由



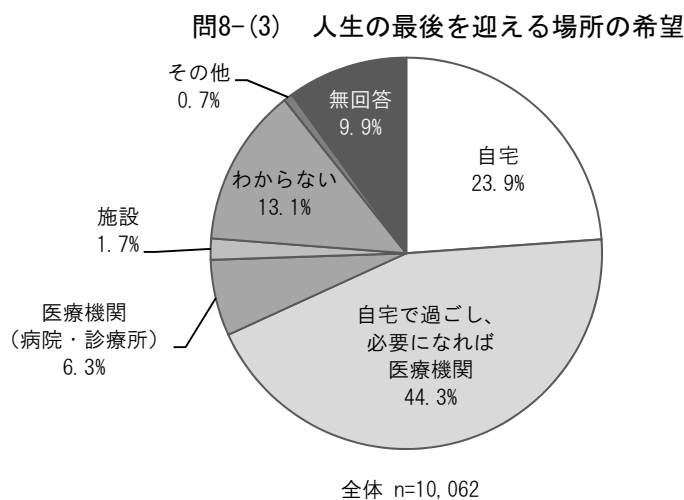
全体 n=10,062

全体 n=997

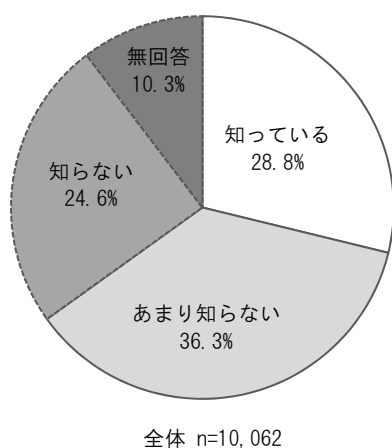
○人生の最後を迎える場所の希望としては、「自宅で過ごし、必要になれば医療機関」(44.3%)が最も高く、次いで「自宅」(23.9%)となっています。

○在宅で看取りができる医療、介護サービスの周知度では、「あまり知らない」(36.3%)、「知っている」(28.8%)、「知らない」(24.6%)となっています。

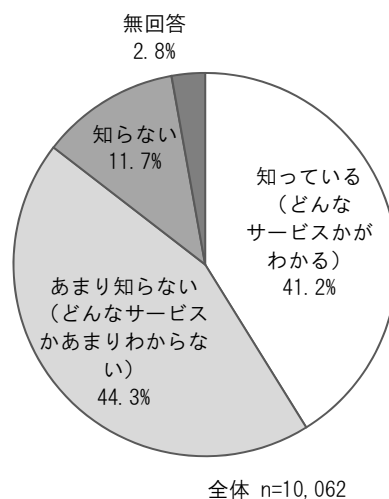
○訪問看護サービスの周知度では、「あまり知らない(どんなサービスかあまりわからない)」(44.3%)、「知っている(どんなサービスかがわかる)」(41.2%)、「知らない」(11.7%)となっています。



問8-(4) 在宅で看取りができる医療、介護サービスの周知度



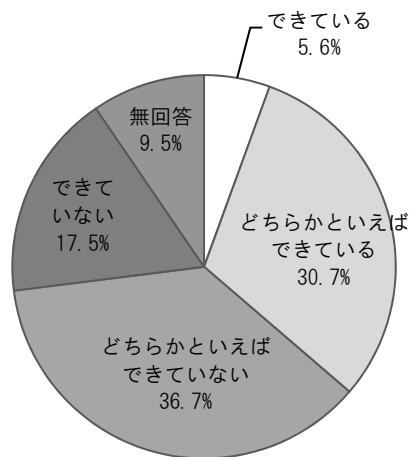
問8-(5) 訪問看護サービスの周知度



○高齢者や子供を見守る「仕組みづくり」ができていないかでは、「どちらかといえばできていない」(36.7%)が最も高く、次いで「どちらかといえばできている」(30.7%)、「できていない」(17.5%)、「できている」(5.6%)となっています。

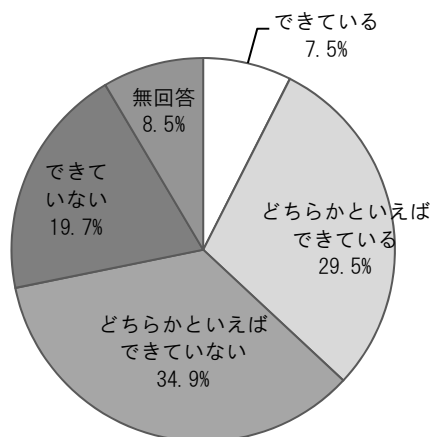
○地域住民同士が交流する「場づくり」ができていないかをみると、「どちらかといえばできている」(29.5%)、「できていない」(34.9%)が最も高く、次いで「どちらかといえばできている」(29.5%)、「できていない」(19.7%)、「できている」(7.5%)となっています。

問8-(6) 高齢者や子供を見守る「仕組みづくり」ができていないか



全体 n=10,062

問8-(7) 地域住民同士が交流する「場づくり」ができていないか



全体 n=10,062

内容

第3章 調査の分析結果	43
1 あなたのご家族や生活状況について	43
(1) 家族構成及び昼間独居者の状況	43
(2) 日常生活における要介護（介助）者の有無	45
(3) 現在の経済状況	47
(4) 現在の居住環境	48
2 からだを動かすことについて	49
(1) 運動機能の状況	49
(2) 外出の状況	51
3 食べることについて	58
(1) 現在の体重（BMI）状況	58
(2) 歯・口腔の状況	59
(3) 食事の状況	61
4 毎日の生活について	62
(1) IADL（手段的自立度）の状況	62
(2) 社会参加（知的能動性）の状況	64
(3) 社会参加（社会的役割）の状況	66
(4) こころの健康状態	68
(5) 物忘れの状況	69
5 地域での活動について	72
(1) 地域とのかかわり	72
(2) グループ活動等の状況	73
(3) 地域づくりに対する参加意向	73
6 たすけあいについて	75
(1) 困った際に頼る相手または頼られる相手	75
(2) 友人・知人との交流状況	77

7 健康について	78
(1) 健康状態.....	78
(2) こころの健康状態	79
(3) 疾病と喫煙や飲酒の関係.....	81
(4) 通院の状況.....	83
(5) サービスの利用状況	84
8 地域包括ケアシステムについて	85
(1) 地域について.....	85
(2) 地域での暮らしについて.....	85